

パート 6

科学技術・イノベーションと社会

(裏白紙)

Q601. (意見の変更理由)研究コミュニティ(学会等)は、科学技術・イノベーションについての国民の理解を促進する活動に、十分に取り組んでいると思いますか。

前回	2024	差	
1	2	4	2 学会独自のアウトリーチに加え、○○○○○【メディア】の番組やYouTubeなど、研究者が出演するコンテンツの充実を感じる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	3	5	2 広報活動に力を入れている。○○○○○【メディア】の番組などにも出演し、積極的に国民に研究施設の活動を説明するなど。(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
3	1	3	2 ファンディング機関や公的研究機関は研究成果を紹介するニュースレターの定期的な発行を地道に継続しており評価できる。一方、大学によるプレスリリースは競争的資金を獲得した際にむしろ行われており、研究成果の発表をするかどうかは研究者に任されている印象がある。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	4	5	1 取り組みすぎているとも言える。結果として若手研究者の貴重な時間が消費されているようにも見える。(大学現場研究者・自然科学,第2G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
5	2	3	1 活動紹介動画を出したから。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
6	3	4	1 新聞報道や、一般講演、テレビ出演などアウトリーチ活動は増えていると思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
7	1	2	1 大学より学会の方が活動している印象が出てきた。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
8	1	2	1 組織が変わり、少しずつ改革が進んでいます。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
9	3	4	1 少しずつだが科学コミュニケーションの活動が活発になってきている(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
10	4	5	1 様々な公開講座等を行っており、国民の理解を促進する活動が増えていると感じたため。一方で、これに携わる方の業務が増えており、研究力低下を招きかねないとの危惧もある。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
11	3	4	1 情報発信は多少増えた気はする。しかし、研究的資金の研究成果発表の目的の為だけのイベント事にしか見えないものが多いのも事実。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
12	2	3	1 様々な機会を通して、大学での成果を社会に発信する努力を行っている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
13	2	3	1 学会展示会での発信は増えていると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
14	2	3	1 学会活動は、今後もさらに活発にする必要がある。特に国内に閉じずに海外との交流が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
15	2	3	1 徐々に学会の国民との交流を重視する傾向が出てきている。言い換えれば、それができない学会は衰退しているものと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
16	2	3	1 日本学術会議も社会課題に即した分科会形成に変わって来た。学会も市民公開講座など取り組みを続けている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
17	1	1	0 研究が直ちに活かされるなどという発信はしないほうが良い。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
18	4	4	0 私が所属する情報・通信分野は積極的に取り組んでいるかと思います。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
19	3	3	0 機会を増やそうという意識は感じるが、下手くそというか、ポイントが見えてない印象。我田引水でいまひとつな取り組みが多いです。社会に寄り添うこと、コミュニティの一員として活動することの意味を考えていかなければいけないでしょう。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
20	4	3	-1 学会においても若手会員が減少している。活動できる人材が減少している。(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
21	4	3	-1 取り組んでいると思うが、物価高や予算減少の影響もあり、活動を縮小せざるを得なくなっている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
22	4	3	-1 研究コミュニティ・学会が多すぎるように思う。もう少し共同で、国民との対話を持つような取り組みがあるとよいように思う。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
23	4	3	-1 学会員が減少し、学会自体が縮小しつつある。以前は一般向けの広報を色々企画していたが、最近はあまり聞かなくなったように思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
24	4	3	-1 会員数、研究成果である論文数の減少が見られ、学会維持が主になっている(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
25	3	2	-1 第3者からの意見を聞く機会があつて過大評価だと思ひなおした。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
26	4	3	-1 批判的な意見もあり、改革が必要と感じる(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
27	4	3	-1 取組はあるが、実質的に成果があがっているかは分からない。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
28	2	1	-1 国民の理解を促進する活動が極めて不十分と感じる(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	5	3	-2 基礎研究の重要性がアピールできていない。(国研等現場研究者・自然科学,助教、研究員クラス,男性)
30	4	2	-2 学会自身がイノベーションから遠い位置にある場合がある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
31	5	3	-2 学術界全体の科学技術で世界と伍するとの意識が低下しているように感じる。後追いで保守的な傾向がますます高まっている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

Q602. 研究コミュニティ(学会等)は、地方公共団体、NPO/NGO、市民等の多様な主体と共創し研究活動を行うことに、十分に組み組んでいくと思いませんか。

集計グループ	分からない	2024年度調査											各年の指数										指数の変化				
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準誤差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年				
		1	2	3	4	5	6																				
集計グループ	大学の自然科学研究者	6.5	4.5	18.0	26.3	27.7	14.0	2.9	32,556	4.8	0.11	3.4	4.9	6.3	4.9	4.8	4.8	-	0.0	-0.1	0.0	-	-0.1				
	国研等の自然科学研究者	9.2	3.1	18.1	34.5	19.2	10.1	5.7	6,297	4.7	0.27	3.4	4.5	6.1	4.6	4.7	4.7	-	0.0	0.1	0.0	-	0.1				
	重点プログラム研究者	9.7	5.9	17.2	29.8	25.2	10.5	1.7	800	4.5	0.13	3.3	4.6	6.0	4.5	4.2	4.4	4.5	-	-0.3	0.2	0.1	-	0.0			
	人文・社会科学系研究者	6.1	1.4	21.9	27.1	17.2	20.5	5.7	2,141	5.1	0.40	3.3	4.8	6.9	4.8	5.0	4.8	5.1	-	0.2	-0.2	0.3	-	0.3			
	大学マネジメント層	3.7	3.3	23.0	44.9	23.5	1.6	0.0	243	3.9	0.00	3.2	4.1	5.1	4.0	4.0	3.9	3.9	-	0.0	-0.1	0.0	-	-0.1			
	国研等マネジメント層	1.8	5.4	28.6	33.9	23.2	5.4	1.8	67	4.0	0.00	2.8	4.1	5.4	4.0	4.1	3.9	4.0	-	0.1	-0.2	0.1	-	0.0			
	企業全体	19.0	14.4	30.7	23.3	9.5	2.3	0.9	4,098	2.9	0.20	2.0	3.1	4.5	3.3	3.0	2.9	2.9	-	-0.3	-0.1	0.0	-	-0.4			
	大企業	13.7	3.8	34.4	30.5	15.3	2.3	0.0	831	3.5	0.15	2.5	3.6	4.8	3.8	3.7	3.6	3.5	-	-0.1	-0.1	-0.1	-	-0.3			
	中小企業・大学発ベンチャー	20.3	17.0	29.8	21.4	8.0	2.3	1.1	3,287	2.8	0.25	1.8	2.9	4.3	3.2	2.9	2.7	2.8	-	-0.3	-0.2	0.1	-	-0.4			
	俯瞰的な視点を持つ者	6.9	6.9	39.7	29.0	15.3	2.3	0.0	934	3.3	0.16	2.4	3.3	4.7	3.1	3.1	3.2	3.3	-	0.0	0.1	0.1	-	0.2			
第1グループ	10.0	4.7	16.6	33.1	25.0	8.8	1.9	5,949	4.5	0.20	3.4	4.5	5.9	4.7	4.8	4.7	4.5	-	0.1	-0.1	-0.2	-	-0.2				
第2グループ	5.9	4.9	23.2	22.7	23.9	16.4	3.0	8,868	4.7	0.23	3.0	4.7	6.4	4.8	4.6	4.6	4.7	-	-0.2	0.0	0.1	-	-0.1				
第3グループ	4.1	6.4	15.4	24.2	32.9	15.5	1.4	8,051	4.8	0.21	3.5	5.1	6.3	5.0	4.7	4.7	4.8	-	-0.3	0.0	0.1	-	-0.2				
第4グループ	6.9	2.5	16.4	27.1	28.6	13.7	4.7	9,688	5.1	0.22	3.6	5.0	6.4	5.1	5.3	5.0	5.1	-	0.2	-0.3	0.1	-	0.0				
理学	9.7	3.9	22.7	25.3	24.3	11.3	3.1	4,923	4.6	0.25	3.0	4.6	6.1	4.7	4.9	4.6	4.6	-	0.2	-0.3	0.0	-	-0.1				
工学・農学	6.0	4.9	20.3	24.9	23.7	16.1	4.2	14,731	4.8	0.17	3.2	4.8	6.4	4.9	4.8	4.8	4.8	-	-0.1	0.0	0.0	-	-0.1				
保健	5.9	4.4	13.7	28.4	33.7	12.6	1.4	12,902	4.9	0.18	3.7	5.0	6.2	5.1	4.9	4.8	4.9	-	-0.2	-0.1	0.1	-	-0.2				
臨床	0.0	4.9	15.9	12.6	60.1	6.5	0.0	1,962	4.9	0.33	3.9	5.5	6.2	4.9	4.7	5.2	4.9	-	-0.2	0.5	-0.3	-	0.0				
臨床以外	7.0	4.3	13.3	31.2	28.9	13.7	1.6	10,939	4.8	0.12	3.6	4.9	6.2	5.1	5.0	4.7	4.8	-	-0.1	-0.3	0.1	-	-0.3				
教授	6.4	4.9	18.9	22.4	30.5	13.8	3.1	14,380	4.8	0.17	3.3	5.0	6.3	4.9	5.0	4.8	4.8	-	0.1	-0.2	0.0	-	-0.1				
准教授	5.1	4.5	17.9	31.5	23.4	14.5	3.1	13,388	4.7	0.18	3.4	4.7	6.2	4.9	4.9	4.7	4.7	-	0.0	-0.2	0.0	-	-0.2				
助教	10.8	3.6	15.8	23.4	31.4	13.2	1.9	4,788	4.9	0.27	3.5	5.1	6.3	4.9	4.8	4.8	4.9	-	-0.1	0.0	0.1	-	0.0				
性別	6.5	4.7	18.6	25.4	27.9	14.0	2.9	27,502	4.8	0.13	3.3	4.9	6.3	4.9	4.9	4.7	4.8	-	0.0	-0.2	0.1	-	-0.1				
女性	6.5	3.5	14.8	31.0	27.1	14.2	2.9	5,054	4.9	0.15	3.6	4.9	6.3	5.0	5.0	5.0	4.9	-	0.0	0.0	-0.1	-	-0.1				
任期有	6.5	6.1	13.0	30.7	30.2	12.0	1.5	7,113	4.7	0.21	3.6	4.8	6.1	5.0	4.6	4.7	4.7	-	-0.4	0.1	0.0	-	-0.3				
任期無	6.5	4.1	19.4	25.1	27.1	14.6	3.3	25,443	4.8	0.12	3.3	4.9	6.3	4.9	5.0	4.8	4.8	-	0.1	-0.2	0.0	-	-0.1				

注1:指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q602. (意見の変更理由)研究コミュニティ(学会等)は、地方公共団体、NPO/NGO、市民等の多様な主体と共創し研究活動を行うことに、十分に取り組んでいると思いますか。

前回	2024	差	
1	1	2	1 学会による。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
2	3	4	1 市民コーナーをもうけるなど,取り組んでいる,ほうだと思ふ。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
3	2	3	1 市民大学への参画や,公開講座の実施による社会貢献は進捗している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
4	2	3	1 以前に比べると努力と改善がみられる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
5	2	3	1 COI-NEXT等の活動を通じて,社会との連携,自治体との連携を強化している(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
6	2	3	1 研究分野にもよるかもしれないが,地方公共団体等と共創する活動は増えていると思われる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
7	3	4	1 多くの時間とリソースを割いているが,これは研究時間を削ることにもつながるのでバランスが必要(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	3	4	1 地方公共団体等の方が主体的にスポンサーとなって,大学と共研されている例が見受けられます。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
9	1	2	1 分野によるが,社会課題との整合性が高い分野では散見するようになった。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
10	3	4	1 地方においては多様な主体との共創の事例が増えているように思う。(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,男性)
11	2	2	0 市民セミナーぐらいか。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
12	5	5	0 医療系学会はやりやすいが,基礎系は難しい面もある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
13	4	4	0 関連省庁や業界とは連携している。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
14	2	2	0 あまり(ほぼ)していないと思います。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
15	3	3	0 学会に依る。環境関係の学会は社会へのアクセス(情報発信,イベント等)にも対応している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	2	2	0 一般社会への対応はそれなりにストレスがかかるのではないですか。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
17	3	3	0 国の予算による支援などには,積極的に関与していると思われます。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
18	2	2	0 学会は市役所や企業,市民とも遠い存在であり,実態が理解されていない。市民,NPOを巻き込んだ手法が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
19	2	2	0 地域支部を持つような学会はそこを起点に色々できるはずで,もっと真剣に活用を考えたいほうが良いです。若手育成の場(発表練習や勉強会などの場)としてしか機能してないのもったいないと思います。地域活動を中央からサポートしてもらうのではなく,地域活動が稼ぎ頭になるにはどうしたらよいか,というような思考の反転が必要です。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
20	3	2	-1 取り組みが不足している(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
21	4	3	-1 第3者からの意見を聞く機会があって過大評価だと思ひなおした。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,男性)
22	2	1	-1 他団体との共創活動に消極的(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
23	3	2	-1 NPOやNGO等,一部の領域では乱立しており,研究コミュニティとして共同,共創する上でリスクが高いと思われる組織が増えつつあり,それらを選別するゆとりがない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
24	5	3	-2 共創していく余地が増えていると思いますので,十分かという点では昨年度より点数を下げました。(大学マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,女性)

Q603. (意見の変更理由)研究者は、自らの研究と社会的課題(少子高齢化、気候変動、感染症等)との関係性や、自らの研究の社会的な意義・価値を十分に考慮しつつ、研究に取り組んでいると思いますか。

前回	2024	差	
1	3	5	2 社会課題との関係で自身のテーマを考える研究者は増えてきているように感じる(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
2	2	3	1 研究倫理セミナーなどの活動を通じて部局内でも社会的なインパクトなどを考慮する機会があるため。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
3	3	4	1 そのようなプロジェクト型の予算がおおいので、やはり考慮せざるをえない状況にあると思う。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	2	3	1 基礎生物学,動物学なので、環境問題に声をあげるなど,学会HPで声明をだすなど,取り組んでいると思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
5	2	3	1 競争的研究資金のことがあるので,ある程度は考えている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授、部局長等クラス,男性)
6	3	4	1 コロナ禍や海水温上昇による風水害巨大化を受けて,意識は変わりつつあるように思えます。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
7	4	5	1 感染症に関わるプロジェクトが顕著に増えたように思います。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
8	3	4	1 カーボンニュートラルに関する組織体系を整備(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
9	2	3	1 研究者にSDGsが浸透してきている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
10	3	4	1 大学として,気候変動,感染症によるパンデミックに対する施策をとり,社会とともに様々な取り組みを実施している(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
11	3	4	1 以前よりは,取り組みは進んでいると思うが,全ての研究が社会的課題に関連するわけでないので,この指標の取り扱いには注意が必要である。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
12	4	5	1 社会課題解決型の研究が増えてきていると感じています。(国研等マネジメント層,その他,男性)
13	3	4	1 特に気候変動(地球温暖化)への取り組みは進んでいると思われる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
14	2	3	1 以前よりは社会課題に積極的に対応してきているように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
15	2	3	1 研究者も含めて大学の存在は,社会とともにあり,常に時代の課題や現状を視野に入れて取り組むことが重要である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
16	3	4	1 取り組んではいるが,成果が断片的すぎて課題の解決に至らない事例が多いことが問題。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
17	2	3	1 社会実装の掛け声は浸透したが,実態は不十分(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
18	1	2	1 競争的資金の獲得のために,ある程度考えるようになってきていると思います。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
19	2	3	1 国際的な科学団体,国連等の働きかけに学会や研究者も対応し出していると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
20	3	4	1 考慮しないと競争的資金の確保は年々難しくなっているため,意識している研究者は増えていると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
21	4	4	0 社会的課題について理解できていても,すぐに取り組めない場合もある(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
22	3	3	0 見える化への努力が不足している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
23	4	4	0 企業以上にアンテナが高い人たちは居ると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
24	2	2	0 百先の既存研究の延長での狭い視野で閉じているように感じる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
25	4	4	0 人工知能(AI)などが席卷するなか,社会的な意義を考えない研究者は少ないかと思いますが,発信できているからは別かと思えます。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
26	4	3	-1 一般的には不十分と判断される側面がある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	4	3	-1 日本の研究者は社会に自分たちの研究を理解してもらう努力がさらに必要である。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
28	4	3	-1 積極的に取り組む研究者と,そうでない研究者が混在(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
29	3	2	-1 研究者個人が取り組もうとしても,組織的に難しい場合がある(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
30	3	2	-1 取り組まれている方と取り組まれていない方,様々だと見受けられます。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
31	3	2	-1 少子高齢化に対する研究アプローチに対して指標の重要性の理解が高まっていない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
32	4	3	-1 コロナ禍における臨床研究の少なさとコロナ対策に関する法学・社会学からの分析の少なさを踏まえると,抽象的な意味での課題意識はあるとしても,現実的に社会的課題の解決につながる研究を実施しようという意欲は高いとは言えないと考えるに至った。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
33	3	2	-1 日々に追われている感が強まっている。これはよくないことである。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)
34	4	2	-2 アカデミアの一定数は好きなこと,できることをやっているだけで,使命感は感じて取り組んでいる方は少数(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
35	5	3	-2 コロナ禍が落ち着き,以前の内向きの研究に傾倒する傾向が特に地方大学では散見される。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

35	4	3	-1	いわゆる「ELSI課題」とされる場合を中心に、課題設定の側面では自然科学側からの課題をそのまま人文・社会科学が受け入れる場面が多く、人文・社会科学の独自の分析が反映されることは多くないことに思い至り、評価を1段階下げた。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
36	3	2	-1	研究分野においても縦割りの印象がぬぐえない。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
37	5	2	-3	環境プラスチックという社会的課題に対する取り組みは各分野でばらばらに行われている。分野ごとに目指す地点が違うからであろう。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)

Q605. 社会的課題の解決を目的とした研究開発の実施に際し、異分野の連携による取組(人文・社会科学と自然科学の連携も含む)が十分に行われていると思いませんか。

集計グループ	分からない	2024年度調査											各年の指数											指数の変化				
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数の標準誤差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年						
		1	2	3	4	5	6																					
大学の自然科学研究者	大学の自然科学研究者	4.8	6.0	23.7	32.2	20.8	10.2	2.3	32,556	4.3	0.11	2.9	4.3	5.8	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	-	0.0	0.0	0.1	-	0.1	1		
	国研等の自然科学研究者	7.2	4.8	16.1	30.3	25.9	10.7	5.0	6,297	4.8	0.28	3.5	4.7	6.2	4.8	4.7	4.7	4.8	4.8	4.8	-	-0.1	0.0	0.1	-	0.0	2	
	重点プログラム研究者	5.0	6.7	27.7	23.9	23.1	11.3	2.1	800	4.2	0.14	2.7	4.2	5.9	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	-	0.0	-0.1	-0.1	-	-0.2	3	
	人文・社会科学系研究者	11.3	0.9	15.8	38.2	16.4	13.9	3.5	2,141	4.8	0.33	3.6	4.5	6.2	4.8	4.8	4.8	4.6	4.8	4.8	-	0.0	-0.2	0.2	-	0.0	4	
	大学マネジメント層	2.1	3.3	31.3	44.4	18.5	0.4	0.0	243	3.6	0.00	2.8	3.9	4.8	3.4	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	-	0.1	0.1	0.0	-	0.2	5	
	国研等マネジメント層	1.8	5.4	32.1	26.8	26.8	5.4	1.8	67	4.0	0.00	2.7	4.1	5.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0	4.0	-	0.1	0.1	0.1	-	0.3	6	
	企業全体	20.5	11.9	41.9	19.8	4.9	1.1	0.0	4,098	2.5	0.14	2.0	2.8	3.8	2.9	2.8	2.6	2.5	2.5	2.5	-	-0.1	-0.2	-0.1	-	-0.4	7	
	大企業	12.2	6.1	37.4	32.1	11.5	0.8	0.0	831	3.2	0.14	2.4	3.4	4.5	3.4	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	-	-0.2	0.1	-0.1	-	-0.2	8	
	中小企業・大学発ベンチャー	22.6	13.4	43.0	16.7	3.2	1.1	0.0	3,287	2.3	0.18	1.9	2.6	3.5	2.7	2.7	2.4	2.3	2.3	2.3	-	0.0	-0.3	-0.1	-	-0.4	9	
	俯瞰的な視点を持つ者	6.1	5.3	45.8	27.5	14.5	0.8	0.0	934	3.1	0.14	2.3	3.2	4.5	2.9	3.0	3.0	3.1	3.1	3.1	-	0.1	0.0	0.1	-	0.2	10	
大学グループ	第1グループ	6.1	4.7	24.6	26.4	25.2	10.1	2.9	5,949	4.4	0.21	2.9	4.4	6.0	4.5	4.6	4.7	4.4	4.4	4.4	-	0.1	0.1	-0.3	-	-0.1	11	
	第2グループ	7.4	6.0	26.0	24.6	22.7	10.6	2.7	8,868	4.3	0.24	2.8	4.3	5.9	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	-	0.0	0.0	0.2	-	0.2	12	
	第3グループ	3.2	6.5	25.8	35.7	20.0	7.1	1.8	8,051	4.0	0.19	2.8	4.1	5.4	4.0	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	-	0.1	0.0	-0.1	-	0.0	13	
	第4グループ	2.8	6.4	19.4	39.8	17.0	12.5	2.0	9,688	4.3	0.21	3.2	4.3	5.7	4.4	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3	-	-0.1	-0.2	0.2	-	-0.1	14	
大学部局分野	理学	10.4	4.6	25.1	28.3	20.9	8.0	2.7	4,923	4.2	0.24	2.8	4.2	5.7	4.4	4.5	4.6	4.2	4.2	4.2	-	0.1	0.1	-0.4	-	-0.2	15	
	工学・農学	2.2	5.6	26.0	27.1	22.2	14.4	2.6	14,731	4.4	0.17	2.9	4.4	6.1	4.5	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	-	-0.1	-0.1	0.1	-	-0.1	16	
	保健	5.6	6.9	20.6	39.5	19.1	6.3	2.0	12,902	4.1	0.17	3.0	4.2	5.3	3.9	3.9	3.9	4.1	4.1	4.1	-	0.0	0.0	0.2	-	0.2	17	
職位	臨床	2.9	7.4	16.7	41.6	23.5	7.9	0.0	1,962	4.2	0.38	3.3	4.3	5.5	3.9	3.3	3.8	4.2	4.2	4.2	-	-0.6	0.5	0.4	-	0.3	18	
	臨床以外	6.1	6.8	21.3	39.1	18.3	6.0	2.3	10,939	4.0	0.11	3.0	4.1	5.3	3.9	4.1	3.9	4.0	4.0	4.0	-	0.2	-0.2	0.1	-	0.1	19	
	教授	4.8	8.3	23.8	27.1	22.0	11.5	2.4	14,380	4.2	0.17	2.7	4.3	5.9	4.2	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	-	0.1	0.0	-0.1	-	0.0	20	
性別	准教授	3.6	3.9	26.1	36.2	19.3	8.5	2.4	13,388	4.2	0.16	3.0	4.2	5.5	4.2	4.2	4.0	4.2	4.2	4.2	-	0.0	-0.2	0.2	-	0.0	21	
	助教	7.8	4.9	16.8	36.1	21.1	11.0	2.2	4,788	4.5	0.24	3.4	4.5	5.9	4.3	4.2	4.4	4.5	4.5	4.5	-	-0.1	0.2	0.1	-	0.2	22	
任期	男性	4.3	5.8	24.0	32.6	20.9	10.0	2.5	27,502	4.3	0.13	2.9	4.3	5.8	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	-	0.1	-0.1	0.1	-	0.1	23	
	女性	7.3	7.1	22.1	30.2	20.3	11.6	1.4	5,054	4.2	0.13	2.9	4.3	5.8	4.4	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	-	-0.2	-0.1	0.1	-	-0.2	24	
任期	任期有	6.5	2.9	28.1	33.0	21.5	5.8	2.1	7,113	4.1	0.19	2.9	4.1	5.5	4.3	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	-	-0.2	0.2	-0.2	-	-0.2	25	
	任期無	4.3	6.9	22.5	32.0	20.6	11.5	2.4	25,443	4.3	0.13	2.9	4.3	5.9	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.2	-	0.1	-0.1	0.1	-	0.1	26	

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q605. (意見の変更理由)社会的課題の解決を目的とした研究開発の実施に際し、異分野の連携による取組(人文・社会科学と自然科学の連携も含む)が十分に行われていると思いますか。

前回	2024	差	
1	2	4	2 基本的に該当しないが、やる人はやっているので変更。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
2	2	4	2 人文・社会科学分野と自然科学分野の研究者が連携して取り組む研究課題を実施しているため。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
3	2	4	2 様々な研究活動拠点の形成において、人文社会科学との連携を強く意識し、様々な学術活動を推進している(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	2	4	2 学際領域展開ハブ事業などにおいて異分野融合を推進している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
5	3	4	1 徐々にではあるが、取り組みが広がってきている(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,准教授、主任研究員クラス,男性)
6	2	3	1 連携を想定している予算が増えた気はする。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
7	3	4	1 J-PEAKSに採択され、〇〇〇〇大との連携で、[〇〇〇〇〇〇〇〇]の連携PJを展開している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	3	4	1 異分野の連携が行いやすい環境が整えられている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
9	2	3	1 異分野融合研究に関する公募の開始(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
10	3	4	1 徐々に意識は高まって実現されてきていると思う。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
11	2	3	1 自社において産学官のコンソーシアム、共同研究への取組が増えた。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
12	2	3	1 十分とは言えないが、異分野との交流による連携活動も以前よりも活発に行われつつあると感じている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
13	1	2	1 取り組みとして十分かどうかは怪しいが、研究者個人個人の啓発は徐々に成果が出ている気がする。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
14	1	2	1 異分野融合の研究を行うと研究成果を発表する場(論文を投稿し受け入れてくれる学術雑誌)を見付けにくい面はあるものの、研究費の公募の要件になっているケースも増えているため、評点を一つ高めた。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
15	2	3	1 社会的課題の解決を目的とした研究開発においては、異分野の融合がやや進んだように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,助教、研究員クラス,男性)
16	1	1	0 環境科学分野はすでに工学・理学・社会科学との連携は進んでいるが、人文学との連携がやや遅れていると感じる。特に人文学,文化人類学や宗教学等との協働はもっと行われるべき(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
17	2	2	0 研究分野における異分野との連携は、お互いの話が通じ合わずに難しい状況である。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
18	2	2	0 表面上は連携の取り組みは多いが、実質的な連携については限定的ではないかと感じている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
19	3	3	0 それを必要とする分野では、行われていると判断。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
20	2	2	0 まだまだ、型にはまった人材が先頭にたつので、伸びのある研究がなされない。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
21	2	2	0 政治やその支援団体の利権の影響を受けてしまうことを懸念されている方もいるのではないかと思います。特にここ10年は長くない時期だったと思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
22	2	2	0 研究グルーピングの公募が必要(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
23	2	2	0 総合知の活用に多くの大学教授は無関心である。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
24	2	2	0 一層の交流が望まれる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
25	3	3	0 ロールモデルが少ないような気がしており、今はまだグッドプラクティスをためていく時期かなと思います。試みは増えている気がしますので、今後、取り組み事例が増えることを期待します。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
26	6	5	-1 連携が十分とは言えない(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
27	2	1	-1 むしろ分野内で閉じる方向に振れ戻った感があります(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
28	3	2	-1 利害を調整する機能が十分でなく、関係者の努力に頼っていると考えられるため(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
29	5	4	-1 大型予算の実施ではこの意識が必須となったため、日本を先導する研究者集団ではかなり進んできた。一方で取り残された中途半端な研究者集団との乖離も生じている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
30	4	3	-1 短期的な特定社会課題の設定が多く、異分野連携を阻害している(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
31	3	2	-1 異分野の融合・連携よりも、同じ分野における細分化の印象がある。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)

Q606. (意見の変更理由)イノベーションを促進するために、制度の充実等(規制の導入や緩和を含む)の手段が、十分に活用されていると思いますか。

前回	2024	差	
1	2	3	1 近年,規制緩和が緩やかに行われている実感がある(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
2	2	3	1 少しずつ,多数の制度が一般に浸透してきたように思える。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
3	2	3	1 経済産業省に編成されたイノベーション・環境局の活動に期待する。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
4	1	2	1 イノベーションという言葉は多く聞くが空虚である。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
5	2	2	0 活用する側の支援の改善がゆっくり.システム化されていない.試行錯誤段階。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
6	1	1	0 この問題が最重要(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
7	2	2	0 十分に活用されている以前に,分野によっては,知らない,興味がない,などの差があると思われます。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
8	2	2	0 戦後多くの制度を作ってきた.制度の多くは立法を伴っており,多くの法律や規則が多くある.現在社会は早くに複雑になってきているので,この法律が時代に合わなくなっている.廃止や規制緩和が重要である.Jクレジットの承認等に時間やお金がかかり過ぎており,温暖化対策が遅れている.保健所の規制によって,食品加工でも制限が大きい。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
9	3	3	0 制度充実をより周知する必要があるのではないのでしょうか。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
10	2	1	-1 行政面での緩和や見直し,連携が付いてきていないと感じる。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
11	4	3	-1 現状維持であるため,グローバルでみると遅れになっている。(大企業の代表等,教授、部局長等クラス,男性)
12	4	3	-1 トップ大学群では経験知の積み重ねで良くなってきている.一方で制度の利用に到達できない大学群は全般に低下している。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

Q609. (意見の変更理由)国は金融財政支援(政府調達、補助金、税制優遇等)を通じて、企業の研究開発投資の促進を十分に行うことができていると思いますか。

	前回	2024	差	
1	1	3	2	スタートアップ5か年計画による効果がこの1年で肌身で実感できている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
2	1	3	2	最近では産学連携が多く言われるため資金が産のほうに多く流れるようになった。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
3	4	5	1	ここ数年の先端技術に対する試験サポートの強化は目をみはるものがある(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
4	1	2	1	○○○○○○○○はスタートアップ向けの支援が手厚くなっている(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
5	1	2	1	やや改善している(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
6	5	6	1	お金がありすぎて工夫しなくなっているのかもしれませんが。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
7	1	1	0	税務調査では,地道な改良活動は,課税対象になります.重点テーマを決めて,税制優遇策を年限を決めてやるなどの政策を研究すべきように思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
8	1	1	0	日本国内にさらに投資すべき,失敗を乗り越えてさらに投資する。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
9	2	2	0	中国,台湾やシンガポールに比べて遅れている。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,男性)
10	2	1	-1	十分でないと思いますし,スタートアップには,厳しく感じました。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)

Q610. (意見の変更理由)オープンイノベーション拠点の整備に向けた産学官の取組は十分に行われていますか。

前回	2024	差	
1	2	4	2 公的な研究機関との施設共同利用等は進んでいると思います。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
2	2	4	2 少しやりすぎの感がある(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
3	3	4	1 拠点が増えてきているように思う(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	2	3	1 ○○○○○○○推進本部の○○○○○○○○○○○○○○部門において,積極的に推進している(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
5	2	3	1 日本全体として,産学官の取組は増えてきていると思われる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
6	2	3	1 まだ不十分であるが,以前よりは進展している。(国研等マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,男性)
7	2	3	1 より増えたように感じる(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
8	2	3	1 以前より進んできたように感じる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
9	2	3	1 東北や神戸は成功例に思う。今後熊本や輪島も復興支援にあわせて拠点化できるとよい。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
10	2	2	0 産は,未だに閉鎖的(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
11	1	1	0 エコシステムの欠如。それを起動するための人材や取り組みの不足(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
12	2	2	0 分野によるが,全般的にオープンイノベーション拠点が広がっているとは言いがたい状況と思われる。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
13	1	1	0 民間主導のプロジェクトにすべきである。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
14	3	3	0 なかなか産の呼び込みが難しい印象です。産側が一緒に作り上げる意識が低いので,最初から完成度の高い拠点でないで引っぱり込めず,大学が力を発揮できるような中長期的開発中心の拠点は苦勞します。官については,役割が不明確なせいや,複数自治体がかからむと取り組み方が難しいのか,なかなか難しい印象です。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,男性)
15	4	3	-1 産業界は冷めている(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	6	5	-1 もう少し「宣伝」をしてもいいと思います。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
17	3	2	-1 拠点はあるものの十分Workしているように感じていません。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
18	2	1	-1 まだ不十分である(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,教授、部局長等クラス,男性)

Q611. (意見の変更理由)産学官が連携して、研究開発の成果に基づいた標準化(フォーラム標準・デファクト標準・デジュール標準等)を進めるような体制の整備が十分に行われていると思いますか。

前回	2024	差	
1	1	3	2 ○○○(○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○)においてインパクト投資を実践するなど、社会実装をより一層強化するため、体制の整備を行っている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
2	2	4	2 標準化がゴールではなく、手段の一つに標準化があると考えており、この設問は適切でないと考えます。(大企業の代表等,学長等クラス,女性)
3	4	5	1 標準化や基準類の整備体制が若干強化されつつある。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
4	1	2	1 ヨーロッパ主導のデファクトに挑戦する機運は感じる。デファクトを狙う活動に対しての国の資金的な援助がより必要。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
5	3	4	1 内閣府知的財産戦略推進事務局が司令塔となり、国際標準戦略の取組を開始した。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
6	1	2	1 世界の標準を確立して欲しい。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
7	1	2	1 特許出願だけでなく標準化への取組も評価項目に含まれることが増えているため。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
8	1	1	0 経産省でも議論が始まっていると思います。これは国策でグイグイやらないと進まないと思います。欧州は強力であり、踏み外す程度に強引に見えます。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
9	2	2	0 まだ足りていない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	2	0 国際標準化は日本がもともと不得意とする分野である。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
11	5	4	-1 技術進展のスピードが加速する中で世界標準を先導する取り組みが相対的に弱くなっているように感じる。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
12	3	2	-1 「標準」は自分事ではない、というのが企業・大学の大勢を占めていると思います。(大学マネジメント層,准教授、主任研究員クラス,女性)
13	3	2	-1 ISOなどの標準化を考えると各研究者や企業人の個人戦になっているように感じます(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
14	2	1	-1 欧米に比較して圧倒的に弱い(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,教授、部局長等クラス,男性)

Q612. 科学技術における国際連携(国際的な人的ネットワークの構築、国際共同研究等)が十分に行われていると思いませんか。

集計グループ	分からない	2024年度調査											各年の指数											指数の変化				
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数の標準差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年						
		1	2	3	4	5	6																					
大学の自然科学研究者	大学の自然科学研究者	2.7	5.2	17.4	26.0	25.5	18.1	5.2	32,556	5.0	0.11	3.4	5.0	6.6	5.2	5.0	5.0	5.0	-0.2	0.0	0.0	-	-0.2	1				
	国研等の自然科学研究者	5.4	0.4	11.3	24.2	27.3	23.2	8.3	6,297	5.8	0.26	4.2	5.7	7.2	5.7	5.7	5.8	5.8	-	0.0	0.1	0.0	-	0.1	2			
	重点プログラム研究者	1.7	4.6	17.2	30.3	29.4	12.6	4.2	800	4.8	0.13	3.5	4.8	6.2	4.9	4.7	4.7	4.8	-	-0.2	0.0	0.1	-	-0.1	3			
	人文・社会科学系研究者	1.3	3.9	21.9	17.7	31.5	21.5	2.1	2,141	5.0	0.36	3.2	5.3	6.6	5.0	5.0	4.9	5.0	-	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	4			
	大学マネジメント層	2.5	3.7	37.0	41.6	14.4	0.8	0.0	243	3.4	0.00	2.6	3.7	4.6	3.4	3.4	3.4	3.4	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	5			
	国研等マネジメント層	3.6	5.4	14.3	30.4	37.5	8.9	0.0	67	4.6	0.00	3.6	4.9	6.0	4.6	4.7	4.6	4.6	-	0.1	-0.1	0.0	-	0.0	6			
	企業全体	23.6	9.4	31.2	26.4	8.6	0.7	0.0	4,098	3.0	0.16	2.2	3.2	4.4	3.0	2.7	2.8	3.0	-	-0.3	0.1	0.2	-	0.0	7			
	大企業	16.8	3.8	26.7	38.2	13.7	0.8	0.0	831	3.5	0.14	2.7	3.8	4.7	3.5	3.6	3.6	3.5	-	0.1	0.0	-0.1	-	0.0	8			
	中小企業・大学発ベンチャー	25.3	10.9	32.3	23.5	7.3	0.7	0.0	3,287	2.8	0.20	2.1	3.0	4.2	2.9	2.5	2.6	2.8	-	-0.4	0.1	0.2	-	-0.1	9			
	俯瞰的な視点を持つ者	5.3	9.9	38.2	27.5	13.7	5.3	0.0	934	3.3	0.17	2.3	3.3	4.7	3.6	3.3	3.3	3.3	-	-0.3	0.0	0.0	-	-0.3	10			
大学グループ	第1グループ	1.7	7.9	12.3	24.1	27.3	18.3	8.2	5,949	5.2	0.25	3.6	5.3	6.8	5.6	5.4	5.5	5.2	-	-0.2	0.1	-0.3	-	-0.4	11			
	第2グループ	2.1	4.9	14.5	21.2	28.7	19.9	8.7	8,868	5.4	0.23	3.7	5.5	7.0	5.2	5.1	5.0	5.4	-	-0.1	-0.1	0.4	-	0.2	12			
	第3グループ	3.7	2.3	21.4	26.0	26.0	18.8	1.8	8,051	4.9	0.21	3.4	4.9	6.4	5.1	5.0	5.0	4.9	-	-0.1	0.0	-0.1	-	-0.2	13			
	第4グループ	2.9	6.3	19.8	31.4	21.0	15.7	2.9	9,688	4.6	0.22	3.2	4.5	6.2	5.0	4.7	4.6	4.6	-	-0.3	-0.1	0.0	-	-0.4	14			
大学部局分野	理学	0.4	1.1	10.7	21.7	26.3	27.9	11.9	4,923	6.1	0.25	4.3	6.0	7.6	6.4	6.3	6.2	6.1	-	-0.1	-0.1	-0.1	-	-0.3	15			
	工学・農学	2.2	6.7	17.4	23.0	23.8	20.9	6.0	14,731	5.1	0.18	3.4	5.1	6.9	5.4	5.3	5.1	5.1	-	-0.1	-0.2	0.0	-	-0.3	16			
	保健	4.0	5.1	19.8	30.9	27.2	11.2	1.7	12,902	4.5	0.18	3.3	4.6	6.0	4.6	4.3	4.4	4.5	-	-0.3	0.1	0.1	-	-0.1	17			
	臨床	2.1	7.4	34.3	25.9	15.4	14.9	0.0	1,962	3.9	0.40	2.5	3.8	5.6	4.6	3.7	4.4	3.9	-	-0.9	0.7	-0.5	-	-0.7	18			
職位	臨床以外	4.4	4.7	17.2	31.8	29.3	10.5	2.0	10,939	4.6	0.12	3.4	4.7	6.0	4.6	4.5	4.4	4.6	-	-0.1	-0.1	0.2	-	0.0	19			
	教授	0.8	5.7	16.4	23.9	25.0	23.1	5.0	14,380	5.2	0.17	3.5	5.2	6.9	5.3	5.2	5.2	5.2	-	-0.1	0.0	0.0	-	-0.1	20			
	准教授	4.1	5.2	18.5	27.2	26.6	13.3	5.1	13,388	4.8	0.19	3.4	4.8	6.3	5.3	5.1	4.9	4.8	-	-0.2	-0.2	-0.1	-	-0.5	21			
性別	助教	4.3	3.7	17.1	28.7	24.1	16.2	5.9	4,788	5.0	0.24	3.5	4.9	6.5	5.1	4.8	4.7	5.0	-	-0.3	-0.1	0.3	-	-0.1	22			
	男性	2.2	5.7	16.8	25.8	25.6	18.3	5.6	27,502	5.0	0.13	3.5	5.0	6.6	5.2	5.1	5.0	5.0	-	-0.1	-0.1	0.0	-	-0.2	23			
	女性	5.0	2.7	20.6	26.9	24.9	16.8	3.1	5,054	4.9	0.15	3.4	4.8	6.4	5.1	4.9	4.9	4.9	-	-0.2	0.0	0.0	-	-0.2	24			
任期	任期有	4.9	4.3	13.8	33.9	29.9	11.0	2.2	7,113	4.8	0.19	3.6	4.8	6.1	5.1	4.8	4.8	4.8	-	-0.3	0.0	0.0	-	-0.3	25			
	任期無	2.0	5.5	18.4	23.7	24.3	20.1	6.0	25,443	5.1	0.13	3.4	5.1	6.8	5.3	5.1	5.0	5.1	-	-0.2	-0.1	0.1	-	-0.2	26			

注1:指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→4ポイント、「5」→6ポイント、「6」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q612. (意見の変更理由)科学技術における国際連携(国際的な人的ネットワークの構築、国際共同研究等)が十分に行われていると思いますか。

前回	2024	差		
1	2	4	2	プラスチック汚染など,世界的な取り組みが必要な分野に関して,国際的なデータ共有ネットワークが構築され始めていることを知ったから。(国研等現場研究者・自然科学,助教, 研究員クラス,女性)
2	3	5	2	コロナ禍が収束し,この1年間,科学技術における国際連携が飛躍的に進展した。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
3	5	6	1	国際的な人的ネットワーク構築を推進するための募集が増えたように感じます。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授,主任研究員クラス,男性)
4	3	4	1	国際共同研究の支援プロジェクトにより,国際連携が進んだため(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
5	3	4	1	COVID19感染状況改善に伴い活性化してきている。(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
6	2	3	1	aspireなど使いやすい国際ネットワーク支援資金も生まれ少しずつ広がっている(重点プログラム研究者,教授,部局長等クラス,男性)
7	1	2	1	コロナ禍が終息し,国際連携が改めて加速し始めている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	2	3	1	国レベルでも様々な取り組みを行い,大学レベルでもスーパーグローバル事業等を通して,積極的な国際連携を仕掛けている。大学に多くの国際的に重要な人物がキャンパスを訪問し,教員,学生との直接的交流の機会を積極的に設けている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
9	3	4	1	昨年度に比較して,国際連携活動は活発化してきたと感じている。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	3	1	若手研究者はそういう志向が出てきつつある(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
11	2	3	1	ネットワーク構築等コロナで止まっていたものが動き出した感はある。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,女性)
12	2	2	0	資金の受け渡しが面倒,新型コロナのために非常に厳しくなった流通制限が問題。(大学現場研究者・自然科学,第4G,農学,教授,部局長等クラス,男性)
13	3	3	0	ネットワーク構築はされても,成果を生み出す共同研究として維持・発展させるのは難しい(国研等現場研究者・自然科学,准教授,主任研究員クラス,女性)
14	2	2	0	そうしようにも時間とお金,人材がないです。(人文・社会科学系研究者,教授,部局長等クラス,男性)
15	1	1	0	ますます孤立している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
16	1	1	0	国際人がいないし,いても登用しようとならないのが霞ヶ関文化(国研等マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
17	3	3	0	教授陣にはある程度進んでいるが,若手の研究者に関してはなかなかレベルが低い。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
18	3	3	0	内閣府グローバルスタートアップキャンパス構想の取組が開始された。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
19	1	1	0	招へい,留学等双方での交流事業にお金をもっとかけるべきである。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
20	1	1	0	コロナ以来,日本の国際的孤立化が目立っている(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
21	2	2	0	日本は今後アジア諸国にも抜かれていく存在である。ここでリーダーシップを維持する方法を本気で考える必要がある。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
22	6	5	-1	日本全体としては物足りない(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
23	5	4	-1	行われていると思うが,研究時間の減少等もあり限定的になってきているのではないかと感じている。(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,准教授,主任研究員クラス,女性)
24	3	2	-1	留学生センターなどが大きくなり,整備されてはきている。国際連携が十分かという点,そうでもないと思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,教授,部局長等クラス,女性)
25	2	1	-1	一部の教員に限られており,国際連携を組織として進めていくような方策は考えられていない。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,准教授,主任研究員クラス,男性)
26	3	2	-1	日本の経済的衰退のために,海外旅費の高騰が生じ,国際学会への参加が減少している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授,部局長等クラス,男性)
27	6	5	-1	外部資金を獲得して行っています(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授,部局長等クラス,女性)
28	5	4	-1	アメリカやカナダへの出張を通じて,日本の国際連携が十分でないことを改めて認識しました。(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授,部局長等クラス,男性)
29	4	3	-1	相手国(中国)側の条件が厳しくなっている。(人文・社会科学系研究者,准教授,主任研究員クラス,女性)
30	4	3	-1	国際的な拠点の構築を目指した取り組みを加速,強化する必要がある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
31	4	3	-1	中国,ロシアの一件が影を落としてますね,外為(みなし輸出などの)講習ばかりで,国際連携のハードルが嫌がおうにも上がってしまいました。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
32	3	2	-1	トップ大学群では経験知の積み重ねで良くなってきている一方で,脱落する大学群が着実に増えている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授,部局長等クラス,男性)
33	3	1	-2	研究者単位ではおこなわれている。一方で,国際環境において学会等に使用可能な予算の使用範囲が限定され過ぎている。世界基準に照らし合わせた改革が必要。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授,主任研究員クラス,男性)
34	5	3	-2	枠組みはあるものの,海外出張旅費などの資金面の問題や英語力の低さのために,十分に活用されていないように思う。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,准教授,主任研究員クラス,女性)
35	4	2	-2	コロナ以降,海外学会参加者・留学生が減ったと感じる。また,海外留学生者が帰ってこない。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授,部局長等クラス,女性)

36	5	3	-2	JSTのASPIREのような制度がもっと裾野が広がると良い(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
37	3	1	-2	科研費で,国際的な人的ネットワークの構築,国際共同研究等のための研究種目がなくなった(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)

Q613. 国際共同研究を推進するにあたり、日本の制度(研究資金の利用ルール、知財権の取扱いのルール等)は、国際的な慣行に照らして十分に適切であると思いますか。

集計グループ	分からない	2024年度調査										各年の指数										指数の変化				
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準誤差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年			
		1	2	3	4	5	6																			
大学の自然科学研究者	大学の自然科学研究者	16.7	8.5	19.2	24.8	19.2	8.6	2.6	32,556	4.2	0.12	2.7	4.2	5.8	4.4	4.2	4.2	4.2	-	-0.2	0.0	0.0	-	-0.2	1	
	国研等の自然科学研究者	19.3	8.3	13.3	26.8	20.5	9.1	2.7	6,297	4.4	0.30	3.2	4.5	6.0	4.5	4.6	4.4	4.4	-	-0.1	-0.2	0.0	-	-0.1	2	
	重点プログラム研究者	18.5	13.4	22.7	24.8	16.0	3.4	1.3	800	3.4	0.14	2.2	3.6	5.0	3.5	3.3	3.4	3.4	-	-0.2	0.1	0.0	-	-0.1	3	
	人文・社会科学系研究者	7.2	5.3	40.3	13.9	17.1	12.7	3.3	2,141	4.0	0.42	2.4	3.4	6.0	4.2	4.1	3.9	4.0	-	-0.1	-0.2	0.1	-	-0.2	4	
	大学マネジメント層	6.6	4.9	34.6	40.7	11.1	2.1	0.0	243	3.4	0.00	2.6	3.6	4.6	3.3	3.3	3.4	3.4	-	0.0	0.1	0.0	-	0.1	5	
	国研等マネジメント層	5.4	7.1	30.4	35.7	17.9	3.6	0.0	67	3.6	0.00	2.6	3.8	4.9	3.5	3.6	3.5	3.6	-	0.1	-0.1	0.1	-	0.1	6	
	企業全体	34.3	15.5	29.1	14.1	5.0	1.1	0.9	4,098	2.5	0.21	1.7	2.7	3.9	2.9	2.7	2.6	2.5	-	-0.2	-0.1	-0.1	-	-0.4	7	
	大企業	29.0	6.9	27.5	28.2	7.6	0.8	0.0	831	3.1	0.16	2.3	3.4	4.4	3.6	3.4	3.3	3.1	-	-0.2	-0.1	-0.2	-	-0.5	8	
	中小企業・大学発ベンチャー	35.6	17.7	29.6	10.5	4.3	1.1	1.1	3,287	2.3	0.27	1.5	2.5	3.5	2.7	2.5	2.5	2.3	-	-0.2	0.0	-0.2	-	-0.4	9	
	俯瞰的な視点を持つ者	13.7	14.5	35.1	22.9	12.2	1.5	0.0	934	2.9	0.17	2.0	3.0	4.4	3.3	3.2	3.0	2.9	-	-0.1	-0.2	-0.1	-	-0.4	10	
大学グループ	第1グループ	16.2	13.5	18.8	22.5	17.6	7.2	4.1	5,949	4.0	0.28	2.3	4.0	5.8	4.3	4.1	4.1	4.0	-	-0.2	0.0	-0.1	-	-0.3	11	
	第2グループ	19.7	4.5	21.1	22.5	18.8	10.6	2.8	8,868	4.5	0.24	2.9	4.4	6.1	4.5	4.2	4.2	4.5	-	-0.3	0.0	0.3	-	0.0	12	
	第3グループ	15.9	7.1	17.3	24.6	22.0	11.4	1.7	8,051	4.4	0.22	3.0	4.5	6.1	4.3	4.4	4.4	4.4	-	0.1	0.0	0.0	-	0.1	13	
	第4グループ	14.9	10.3	20.4	28.6	18.4	5.1	2.3	9,688	3.9	0.23	2.6	4.0	5.4	4.5	4.0	4.1	3.9	-	-0.5	0.1	-0.2	-	-0.6	14	
大学部局分野	理学	8.9	10.0	18.4	29.2	18.4	11.6	3.5	4,923	4.3	0.28	2.8	4.3	6.0	4.5	4.4	4.6	4.3	-	-0.1	0.2	-0.3	-	-0.2	15	
	工学・農学	17.8	10.9	20.0	21.0	17.1	10.1	3.0	14,731	4.1	0.19	2.5	4.1	5.9	4.5	4.3	4.1	4.1	-	-0.2	-0.2	0.0	-	-0.4	16	
大学の自然科学研究者	保健	18.4	5.2	19.5	27.6	21.9	5.6	1.8	12,902	4.2	0.17	3.0	4.3	5.7	4.2	4.0	4.1	4.2	-	-0.2	0.1	0.1	-	0.0	17	
	臨床	8.6	5.2	19.0	24.9	21.4	20.3	0.6	1,962	4.8	0.32	3.2	4.8	6.5	5.3	4.3	4.5	4.8	-	-1.0	0.2	0.3	-	-0.5	18	
職位	臨床以外	20.1	5.2	19.6	28.0	22.0	3.0	2.0	10,939	4.1	0.13	2.9	4.2	5.5	4.0	3.9	4.0	4.1	-	-0.1	0.1	0.1	-	0.1	19	
	教授	14.0	11.0	21.5	24.5	17.3	8.6	3.0	14,380	4.0	0.19	2.5	4.0	5.7	4.4	4.0	4.0	4.0	-	-0.4	0.0	0.0	-	-0.4	20	
性別	准教授	17.0	5.5	18.6	29.3	21.0	6.8	1.9	13,388	4.3	0.17	3.0	4.3	5.7	4.5	4.4	4.3	4.3	-	-0.1	-0.1	0.0	-	-0.2	21	
	助教	24.1	9.4	16.3	13.4	20.1	13.4	3.2	4,788	4.6	0.35	2.6	4.9	6.5	4.4	4.2	4.3	4.6	-	-0.2	0.1	0.3	-	0.2	22	
任期	男性	14.7	8.4	19.4	26.0	20.2	8.6	2.8	27,502	4.2	0.14	2.8	4.3	5.8	4.5	4.2	4.2	4.2	-	-0.3	0.0	0.0	-	-0.3	23	
	女性	27.7	8.9	20.5	18.6	14.2	8.4	1.8	5,054	3.9	0.18	2.4	3.9	5.7	4.2	4.1	4.0	3.9	-	-0.1	-0.1	-0.1	-	-0.3	24	
任期	任期有	21.9	3.4	19.1	24.4	26.5	3.6	1.1	7,113	4.3	0.18	3.1	4.5	5.7	4.4	4.1	4.2	4.3	-	-0.3	0.1	0.1	-	-0.1	25	
	任期無	15.2	9.9	19.7	25.0	17.2	9.9	3.0	25,443	4.2	0.14	2.6	4.2	5.9	4.4	4.2	4.2	4.2	-	-0.2	0.0	0.0	-	-0.2	26	

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→4ポイント、「5」→6ポイント、「6」→8ポイント、「7」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q613. (意見の変更理由)国際共同研究を推進するにあたり、日本の制度(研究資金の利用ルール、知財権の取扱いのルール等)は、国際的な慣行に照らして十分に適切であると思いますか。

前回	2024	差		
1	1	3	2	世界が分断する状況において、欧米における日本への期待は大きく、アジアの中の民主主義を代表する国家として、世界を牽引する役割が期待されている。その状況に向けて、徐々に状況が改善されつつある。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
2	2	3	1	不十分であるが改善が見られる(大学現場研究者・自然科学、第4G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
3	2	3	1	海外に比べて、日本の制度は使いやすいつと感じる。(人文・社会科学系研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
4	3	4	1	研究インテグリティについてはG7を中心とする国際的な規範に対応する意識が広まった。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
5	1	2	1	徐々に国際的慣行に準拠してきている。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
6	1	2	1	基金化により、少なくとも年度内に使い切るような研究費の使用ルールは緩和されていると思うから。(大学マネジメント層、教授、部局長等クラス、女性)
7	3	4	1	日本の研究資金制度はわるくない(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
8	2	3	1	かなり整備されてきている。(国研等マネジメント層、学長等クラス、男性)
9	1	1	0	円安に対応した謝金制度になっていない(例、招聘)(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、准教授、主任研究員クラス、男性)
10	3	3	0	国際研究会に参加する際、海外では育児に必要な家族の帯同が受け入れられているが、日本では想定されたシステムになっていない。そのため、乳幼児がいる間(特に乳児をもつ女性研究者)は海外の研究会に参加しづらい。年単位で海外の研究会に参加しないことは、子育て世代の若手〜中堅研究者のキャリアに大きな打撃になる。(大学現場研究者・自然科学、第1G、理学、准教授、主任研究員クラス、女性)
11	1	1	0	研究資金の利用ルールに制限があるので、国際共同研究が進めにくい。双方の機関にお金配分される国際共同研究費のような研究費がないと、先方が共同研究をしたがらない場合がある。(大学現場研究者・自然科学、第1G、保健、助教、研究員クラス、女性)
12	1	1	0	時代遅れ。(大学現場研究者・自然科学、第2G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
13	3	3	0	研究資金の利用ルールに制限が多い(大学現場研究者・自然科学、第3G、理学、教授、部局長等クラス、男性)
14	3	3	0	実験動物や遺伝子の提供のルールなどが挙げられると思うが、現時点でそれほど不適切とは思わない。(大学現場研究者・自然科学、第3G、理学、教授、部局長等クラス、女性)
15	1	1	0	やはり、日本の競争的研究費が、アメリカ・ヨーロッパ諸国と比べ10分の1という現実を突きつけられると十分とは言えない(共同研究をしているドイツ、オーストラリアの研究者から指摘された)(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)
16	1	1	0	基本的に日本のルールと海外のルールとの間には大きな異なりがあります。ゆえに、運営が難しいだろうなと思うことがあります。(大学現場研究者・自然科学、第3G、農学、助教、研究員クラス、女性)
17	1	1	0	分野を問わずにチェックが厳しくなり、提出書類が増えており、逆に国際的な研究活動を妨げている。実際に、業務多忙のため、発表を断ったり、参加を諦めた学会や国際共同設計が複数ある。(大学現場研究者・自然科学、第4G、工学、准教授、主任研究員クラス、女性)
18	5	5	0	海外の方が研究費を柔軟に使える印象だが、それに合わせる必要はない。(国研等現場研究者・自然科学、准教授、主任研究員クラス、女性)
19	1	1	0	いまだに、大企業的な「金出しているのは日本だから全ての権利は日本」という契約を前提としており、国際協力の理念から考えても前時代的すぎて海外大学との契約に苦勞する。その間を取り持てる国際法務人材もJST等の機関におらず国際コラボレーションに支障がでている。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
20	2	2	0	少なくとも欧州のERASMUS+のような枠組みはない。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
21	1	1	0	特定の領域に限った予算においては、推進されているようにも見える。しかし昨今の国際状況を鑑み、悩ましい限りではあるが、自由な国際連携ができているかという点、障壁はまだある(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
22	2	2	0	国際大型研究に対しての科研費の自由度が低い。(人文・社会科学系研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
23	1	1	0	つまらないテーマで募集せず、自由に提案をして、人で選ばないと、機関で選択していたら面白いことは期待できない。(国研等マネジメント層、教授、部局長等クラス、男性)
24	1	1	0	評価、審査よりも先にやらせてみないと！(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
25	1	1	0	ODA予算による国際共同研究支援を強化すべき。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
26	1	1	0	生物多様性条約やWIPOなど、国際的なルールがあまりにも知られていない。もっと研究者自身がこうした国際制度を学ぶべき。大学でも知財や国際法を教えるべき。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
27	2	2	0	予算段階より格段に円安が進んでも途中で増額できないなど、柔軟性は不十分である。予測できない円安には対応して欲しい。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
28	3	2	-1	年々、進み続ける世界情勢と日本の制度との乖離が大きくなり、特に日本から海外へ赴く場合に行きにくくなっているように感じる(大学現場研究者・自然科学、第1G、工学、助教、研究員クラス、女性)
29	3	2	-1	自分で国際会議をオーガナイズして、資金の使途に対して自由度がなくて困った(大学現場研究者・自然科学、第2G、工学、教授、部局長等クラス、男性)
30	5	4	-1	オープンなのはいいが、修士が留学生だらけになったり、安全保障のセキュリティが甘いつと感じられた出来事があったので1ポイント下げた。(大学現場研究者・自然科学、第2G、保健、助教、研究員クラス、女性)
31	3	2	-1	他の先進国に比べると、パイアウト制度の自由度が小さいように思います(大学現場研究者・自然科学、第3G、工学、准教授、主任研究員クラス、男性)

32	3	2	-1	日本の経済的衰退のために、海外旅費の高騰が生じ、国際学会への参加が減少している。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
33	3	2	-1	相手がアカデミアの場合には共同研究契約締結が困難な場合も、せいぜいMTAにとどまる。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
34	4	3	-1	年度による研究資金の縛りは国際共同研究を推進する際に足かせとなるケースが多い(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,男性)
35	2	1	-1	知財に関しては国際連携における制約が大きい(各国プロジェクトが関わる場合、日本(あるいは配分機関)が50%の権利確保が条件となっており、海外と新たな知財を創出しようとする共同研究を推進しにくい状況である)。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
36	3	2	-1	利用ルールについては硬直的であることが多いと意見を変えた。特に懇親会の費用などが出しづらく、持ち回りの国際会議で日本開催の時だけ質素になることが見受けられ、残念に感じる。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
37	2	1	-1	資金利用に関する制約が大きく、国際共同研究をしにくい。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,女性)
38	3	2	-1	外国出張が赤字になるケースが多いのは改善してほしい。特に米欧での食事。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
39	4	3	-1	トップ大学群では経験知の積み重ねで良くなってきている一方で、脱落する大学群が着実に増えている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
40	3	2	-1	研究のルールではなく、一般のルール(薬事法,建築基準法,道路交通法など)の阻害が多い(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
41	4	2	-2	デジタル,カーボンニュートラル,バイオなど新たな枠組み,ルールが必要な状況で,明らかに欧米からは遅れてしまっている(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
42	3	1	-2	昨今の円安でますます悪化。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)

Q614. 研究者は、研究活動の国際化に伴って生じる利益相反・責務相反のリスク要因※に対して、十分な意識を持っていると思いますか。

集計グループ	分からない	2024年度調査											各年の指数						指数の変化					
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準誤差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年	
		1	2	3	4	5	6																	
大学の自然科学研究者	大学の自然科学研究者	6.9	2.6	9.4	18.9	31.3	23.4	7.5	32,556	5.8	0.11	4.3	5.8	7.2	5.5	5.6	5.6	5.8	-	0.1	0.0	0.2	-	0.3
	国研等の自然科学研究者	5.3	0.3	8.5	15.1	32.9	27.0	10.8	6,297	6.3	0.25	5.0	6.2	7.5	5.8	6.3	6.1	6.3	-	0.5	-0.2	0.2	-	0.5
	重点プログラム研究者	10.1	4.2	13.9	20.2	26.5	17.6	800	5.4	0.15	3.7	5.4	6.9	5.0	5.0	5.0	5.2	5.4	-	0.0	0.2	0.2	-	0.4
	人文・社会科学系研究者	5.5	7.3	9.9	17.6	15.5	30.2	14.0	2,141	6.0	0.47	3.9	6.3	7.8	5.7	5.5	5.8	6.0	-	-0.2	0.3	0.2	-	0.3
	大学マネジメント層	0.8	1.2	19.8	32.5	30.0	14.4	1.2	243	4.8	0.00	3.5	4.8	6.2	4.5	4.5	4.8	4.8	-	0.0	0.3	0.0	-	0.3
	国研等マネジメント層	0.0	0.0	7.1	33.9	35.7	23.2	0.0	67	5.5	0.00	4.2	5.4	6.6	4.9	5.1	5.0	5.5	-	0.2	-0.1	0.5	-	0.6
	企業全体	31.9	12.7	18.9	18.8	13.5	4.2	0.0	4,098	3.3	0.24	2.1	3.6	5.1	3.3	3.2	3.5	3.3	-	-0.1	0.3	-0.2	-	0.0
	大企業	23.7	5.3	25.2	24.4	16.8	4.6	0.0	831	3.7	0.19	2.6	3.9	5.2	4.0	4.0	4.1	3.7	-	0.0	0.1	-0.4	-	-0.3
	中小企業・大学発ベンチャー	34.0	14.5	17.3	17.4	12.7	4.1	0.0	3,287	3.2	0.30	1.9	3.4	5.0	3.1	3.0	3.4	3.2	-	-0.1	0.4	-0.2	-	0.1
	俯瞰的な視点を持つ者	9.9	6.1	26.7	29.0	22.1	5.3	0.8	934	3.9	0.18	2.7	4.0	5.4	3.3	3.6	3.8	3.9	-	0.3	0.2	0.1	-	0.6
	第1グループ	7.2	2.7	4.4	21.9	27.3	27.6	8.8	5,949	6.1	0.20	4.6	6.1	7.5	5.8	5.8	6.3	6.1	-	0.0	0.5	-0.2	-	0.3
	第2グループ	9.3	0.3	7.8	14.4	34.7	26.8	6.8	8,868	6.2	0.18	5.0	6.1	7.3	5.5	5.6	5.7	6.2	-	0.1	0.1	0.5	-	0.7
	第3グループ	5.8	1.4	8.6	26.0	33.7	22.1	2.4	8,051	5.6	0.18	4.2	5.5	6.7	5.3	5.2	5.2	5.6	-	-0.1	0.0	0.4	-	0.3
	第4グループ	5.5	5.6	14.7	15.4	28.7	18.7	11.5	9,688	5.6	0.25	3.7	5.7	7.3	5.6	5.6	5.5	5.6	-	0.0	-0.1	0.1	-	0.0
理学	8.7	1.4	4.8	15.5	32.7	26.0	10.9	4,923	6.4	0.22	5.1	6.2	7.6	6.2	6.3	6.5	6.4	-	0.1	0.2	-0.1	-	0.2	
工学・農学	6.3	3.0	9.9	19.5	29.5	23.5	8.2	14,731	5.8	0.16	4.2	5.8	7.3	5.6	5.5	5.4	5.8	-	-0.1	-0.1	0.4	-	0.2	
保健	6.8	2.5	10.7	19.6	32.9	22.2	5.3	12,902	5.7	0.18	4.2	5.7	7.0	5.3	5.3	5.5	5.7	-	0.0	0.2	0.2	-	0.4	
臨床	7.2	3.8	12.6	9.8	21.8	40.2	4.5	1,962	6.1	0.47	4.5	6.5	7.6	5.3	5.0	5.5	6.1	-	-0.3	0.5	0.6	-	0.8	
臨床以外	6.8	2.2	10.3	21.3	34.9	19.0	5.5	10,939	5.6	0.11	4.2	5.6	6.8	5.3	5.4	5.5	5.6	-	0.1	0.1	0.1	-	0.3	
教授	5.9	3.6	11.2	17.5	28.3	26.4	7.3	14,380	5.8	0.17	4.2	5.9	7.3	5.6	5.7	5.6	5.8	-	0.1	-0.1	0.2	-	0.2	
准教授	5.6	1.9	10.2	21.3	31.8	21.8	7.2	13,388	5.8	0.17	4.2	5.7	7.1	5.4	5.4	5.6	5.8	-	0.0	0.2	0.2	-	0.4	
助教	13.6	1.4	2.0	16.6	39.0	18.6	8.7	4,788	6.3	0.20	5.1	6.0	7.2	5.7	5.6	5.7	6.3	-	-0.1	0.1	0.6	-	0.6	
性別	男性	6.7	2.3	9.0	18.2	32.7	23.6	7.5	27,502	5.9	0.12	4.4	5.9	7.2	5.6	5.6	5.7	5.9	-	0.0	0.1	0.2	-	0.3
	女性	7.7	4.2	11.7	23.0	24.0	22.4	7.1	5,054	5.5	0.15	3.9	5.5	7.1	5.4	5.4	5.3	5.5	-	0.0	-0.1	0.2	-	0.1
任期	任期有	8.3	1.4	8.8	23.5	32.3	19.5	6.2	7,113	5.7	0.22	4.2	5.6	6.9	5.5	5.3	5.7	5.7	-	-0.2	0.4	0.0	-	0.2
	任期無	6.5	2.9	9.6	17.6	31.1	24.5	7.8	25,443	5.9	0.12	4.4	5.9	7.3	5.6	5.6	5.6	5.9	-	0.0	0.0	0.3	-	0.3

注1: 指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q614. (意見の変更理由)研究者は、研究活動の国際化に伴って生じる利益相反・責務相反のリスク要因※に対して、十分な意識を持っていると思いますか。

	前回	2024	差	
1	1	5	4	学習機会が設けられ、徹底している。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
2	3	5	2	学内での啓発が進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第1G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
3	2	4	2	ビデオ視聴・質問への回答(クイズ形式)が必須になった(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,女性)
4	4	6	2	機関で全学に対してリスクについて説明を十分に行っている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,助教、研究員クラス,男性)
5	3	5	2	組織内での教育や調査が強化されており、研究者の意識も高くなっている。(国研等現場研究者・自然科学,准教授、主任研究員クラス,女性)
6	2	4	2	安全保障輸出管理や利益相反については随時講演会などを開催しており、認識は向上している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	4	2	「研究インテグリティ」に関する研修等も行われ、研究者の意識は高まってきていると思われるため。(俯瞰的な視点を持つ者,准教授、主任研究員クラス,女性)
8	3	4	1	そのような意識を高めるための教育的セミナーが増えた。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
9	2	3	1	リスクに対しては敏感だけど、それにとらわれすぎて、逆に国際化しにくくなっている。(大学現場研究者・自然科学,第3G,理学,准教授、主任研究員クラス,女性)
10	2	3	1	関連講習会等が増え、意識改善につながっていると思われる。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
11	3	4	1	学内で生じた問題を契機に、研究倫理感を高める種々のプログラムが実施され、その結果意識が高まったと思われます。(大学現場研究者・自然科学,第3G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
12	4	5	1	取り組みが浸透してきた(大学現場研究者・自然科学,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
13	4	5	1	利益相反・責務相反に関する部局が動きつつある印象。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	3	4	1	研究インテグリティ教育などにより以前より意識が高まっている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
15	4	5	1	近年の経済安保上の課題から、所属機関の研究インテグリティに対する意識は著しく改善している。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
16	3	4	1	リスクマネジメント研修がよく行われるようになってきている(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
17	1	2	1	言葉は聞くようになった。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
18	5	6	1	非常に厳格化されたため意識は高まっているが、研究の自由度は落ち、研究競争力は下がっていると認識。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
19	2	3	1	アンケートや研修の質が向上した。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
20	4	5	1	学内研修の頻度を高めている効果が現れつつあると考える。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
21	2	3	1	研修等の実施により意識は向上している(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
22	5	6	1	貿易管理を含めて全学の教員への啓発研修を推し進めている。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
23	4	5	1	研修の仕組みが充実し、受講が徹底された。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
24	2	3	1	学内で研究インテグリティの体制を整備し、大学への必要な報告を求め始めたから、ただし、構成員に十分にリスク等を理解してもらうには、引き続き具体例を示しながらの研修が必要と思われる。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
25	3	4	1	様々な取り組みを、これまで以上に組織的に進めている(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
26	2	3	1	教育が進んできた(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	2	3	1	〇〇〇〇センターの出入りの管理など、少しずつ浸透している。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
28	3	4	1	研究インテグリティに関する講習会などを開催するようになった。(国研等マネジメント層,その他,男性)
29	2	3	1	国の施策、文部科学省などの指導もあり、意識が醸成されつつある。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,男性)
30	1	2	1	COIについて倫理面でも、認知度は徐々に高まっていると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
31	2	3	1	やっている人は理解していると思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
32	3	4	1	利益相反・責務相反の考え方に関するご相談が増えており、大学等の意識が高まっているように思います。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,女性)
33	3	3	0	大学として、対応している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
34	5	5	0	インテグリティについての規定が整備され、意識も高まってきている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
35	2	2	0	理科系大学院生の1/4が経済安全保障で話題になる対象国出身者(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
36	1	1	0	ルール、法令順守は必要だが、利益相反に近い所に成功があることを認識する必要がある。利益が出ないのに真剣にならない。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
37	4	4	0	大学事務によりチェックするシステムが充実してきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
38	6	6	0	「リスク要因」の意識強化が上記の国際性推進と相反する方向に進んでいる。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

39	2	1	-1	リスクに関する意識・対策が弱いと思います。(大学現場研究者・自然科学,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
40	3	2	-1	国際情勢の複雑化にはついて行っていないと思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
41	4	3	-1	内部での経験者が少なく適切な情報にアクセスしにくい(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
42	4	3	-1	研究データマネジメントの方針が明確化されてくるにつれ,われわれの分野でもこの問題が大きいことを認識するようになりました。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
43	2	1	-1	中国人留学生が不正行為をしていましたが,結局教員が訴訟に関する書類等を用意する羽目になり,とても馬鹿馬鹿しくてやっつけられません。(人文・社会科学系研究者,教授、部局長等クラス,男性)
44	2	1	-1	安全保障の意識は低いと思う(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
45	3	2	-1	医師が研究に参加するとCOIの意識が低下する。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
46	5	3	-2	複雑化がすすんでおり対応できていない部分もある(大学現場研究者・自然科学,第1G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
47	3	1	-2	企業では,ホワイト国以外の人材の活用に苦慮(先端技術には従事させられない)しています。先端技術の博士課程後期の学生さんにホワイト国以外の方が多くいらっしゃることに違和感を感じています。(大企業の代表等,学長等クラス,女性)
48	4	2	-2	昨今の中国,中東の学生受け入れにおいて危機感はずくない(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

Q615. 研究活動の国際化に伴って生じる、利益相反・責務相反のリスクに対応するための組織的な取組※は十分に行われていると思いますか。

集計グループ	分からない	2024年度調査											各年の指数						指数の変化						
		6点尺度(%)						母集団の規模(人)	指数	指数の標準誤差	第1四分点	中央値	第3四分点	2021	2022	2023	2024	2025	21→22	22→23	23→24	24→25	21→最新年		
		1	2	3	4	5	6																		
大学グループ	大学の自然科学研究者	8.1	3.1	7.3	20.5	29.5	23.8	7.7	32,556	5.9	0.11	4.4	5.8	7.3	5.6	5.6	5.7	5.9	-	0.0	0.1	0.2	-	0.3	1
	国等の自然科学研究者	4.5	2.0	5.6	12.1	32.2	33.0	10.6	6,297	6.5	0.25	5.2	6.5	7.7	5.9	6.3	6.4	6.5	-	0.4	0.1	0.1	-	0.6	2
	重点プログラム研究者	10.1	4.2	13.0	23.1	25.2	15.5	8.8	800	5.4	0.15	3.7	5.3	6.9	5.0	5.0	5.2	5.4	-	0.0	0.2	0.2	-	0.4	3
	人文・社会科学系研究者	5.3	6.7	5.5	18.7	20.0	29.9	14.0	2,141	6.2	0.45	4.4	6.4	7.8	5.5	5.7	5.8	6.2	-	0.2	0.1	0.4	-	0.7	4
	大学マネジメント層	0.4	2.1	11.9	26.3	39.5	18.1	1.6	243	5.3	0.00	4.0	5.4	6.4	4.9	5.0	5.1	5.3	-	0.1	0.1	0.2	-	0.4	5
	国研等マネジメント層	0.0	0.0	3.6	21.4	44.6	28.6	1.8	67	6.1	0.00	5.0	5.9	7.0	5.1	5.6	5.3	6.1	-	0.5	-0.3	0.8	-	1.0	6
	企業全体	36.0	10.4	22.7	13.7	11.5	5.7	0.0	4,098	3.4	0.25	2.1	3.3	5.2	3.4	3.2	3.4	3.4	-	-0.2	0.2	0.0	-	0.0	7
	大企業	26.7	7.6	25.2	24.4	13.0	3.1	0.0	831	3.4	0.19	2.4	3.6	4.8	3.8	3.8	3.8	3.4	-	0.0	0.0	-0.4	-	-0.4	8
	中小企業・大学発ベンチャー	38.4	11.1	22.1	10.9	11.1	6.4	0.0	3,287	3.3	0.33	2.0	3.2	5.3	3.3	3.1	3.4	3.3	-	-0.2	0.3	-0.1	-	0.0	9
	俯瞰的な視点を持つ者	10.7	6.1	30.5	27.5	19.1	5.3	0.8	934	3.8	0.18	2.6	3.8	5.3	3.3	3.6	3.7	3.8	-	0.3	0.1	0.1	-	0.5	10
	第1グループ	10.4	1.7	4.9	18.4	31.3	25.3	8.0	5,949	6.2	0.20	4.8	6.1	7.4	6.0	6.2	6.6	6.2	-	0.2	0.4	-0.4	-	0.2	11
第2グループ	11.1	1.3	7.3	14.1	27.2	30.4	8.6	8,868	6.3	0.21	5.0	6.3	7.6	5.9	5.8	5.8	6.3	-	-0.1	0.0	0.5	-	0.4	12	
第3グループ	6.5	2.9	6.2	30.6	29.9	21.5	2.4	8,051	5.5	0.19	4.1	5.4	6.7	5.2	5.2	5.1	5.5	-	0.0	-0.1	0.4	-	0.3	13	
第4グループ	5.2	5.9	9.8	19.3	30.2	18.7	10.9	9,688	5.7	0.25	4.0	5.7	7.2	5.5	5.5	5.5	5.7	-	0.0	0.0	0.2	-	0.2	14	
理学	7.9	1.0	4.1	16.2	36.4	21.5	12.9	4,923	6.4	0.22	5.1	6.1	7.5	6.2	6.4	6.6	6.4	-	0.2	0.2	-0.2	-	0.2	15	
工学・農学	6.3	4.2	6.8	20.2	27.0	27.8	7.8	14,731	5.9	0.16	4.4	6.0	7.4	5.7	5.7	5.6	5.9	-	0.0	-0.1	0.3	-	0.2	16	
保健	10.2	2.7	9.2	22.5	29.8	20.1	5.5	12,902	5.6	0.20	4.1	5.6	6.9	5.3	5.3	5.4	5.6	-	0.0	0.1	0.2	-	0.3	17	
臨床	6.3	3.8	12.6	26.7	27.3	18.8	4.5	1,962	5.2	0.47	3.8	5.2	6.7	5.3	4.9	4.7	5.2	-	-0.4	-0.2	0.5	-	-0.1	18	
臨床以外	10.9	2.5	8.5	21.7	30.3	20.3	5.7	10,939	5.7	0.12	4.2	5.6	7.0	5.3	5.4	5.6	5.7	-	0.1	0.2	0.1	-	0.4	19	
教授	5.7	5.2	7.4	18.9	28.5	25.2	9.0	14,380	5.9	0.18	4.3	5.9	7.4	5.5	5.7	5.7	5.9	-	0.2	0.0	0.2	-	0.4	20	
准教授	8.2	2.0	6.1	21.9	31.2	24.2	6.4	13,388	5.9	0.17	4.5	5.8	7.2	5.6	5.6	5.7	5.9	-	0.0	0.1	0.2	-	0.3	21	
助教	14.7	0.3	10.5	21.2	27.9	18.2	7.2	4,788	5.8	0.29	4.2	5.6	7.0	5.7	5.7	5.7	5.8	-	0.0	0.0	0.1	-	0.1	22	
男性	7.6	3.1	6.7	19.8	30.5	24.6	7.7	27,502	5.9	0.13	4.5	5.9	7.3	5.6	5.7	5.8	5.9	-	0.1	0.1	0.1	-	0.3	23	
女性	10.4	3.3	10.6	24.5	24.5	19.2	7.5	5,054	5.5	0.15	3.9	5.4	7.0	5.5	5.5	5.4	5.5	-	0.0	-0.1	0.1	-	0.0	24	
任期有	12.9	1.2	7.0	25.5	27.6	20.3	5.5	7,113	5.7	0.23	4.2	5.6	7.0	5.6	5.5	5.7	5.7	-	-0.1	0.2	0.0	-	0.1	25	
任期無	6.7	3.7	7.4	19.1	30.1	24.8	8.3	25,443	5.9	0.12	4.4	5.9	7.3	5.6	5.7	5.7	5.9	-	0.1	0.0	0.2	-	0.3	26	

注1:指数とは、6点尺度(1(不十分)~6(十分))を、「1」→0ポイント、「2」→2ポイント、「3」→4ポイント、「4」→6ポイント、「5」→8ポイント、「6」→10ポイントに変換し、その平均値を層(大学グループ別、大学部局分野別など)ごとに集計したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q615. (意見の変更理由)研究活動の国際化に伴って生じる、利益相反・責務相反のリスクに対応するための組織的な取組※は十分に行われていると思いますか。

前回	2024	差	
1	1	5	4 学習機会が設けられ、徹底している。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
2	1	4	3 問題を起こした教員がいたため、強化された(大学現場研究者・自然科学,第2G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
3	2	4	2 そのような意識を高めるための教育的セミナーが増え、それらに関する書類も増えた。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,准教授、主任研究員クラス,女性)
4	4	6	2 機関で全学に対してリスクの管理を行っている。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,助教、研究員クラス,男性)
5	2	4	2 規程や体制を整備して研修等を定期的に行っている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
6	3	5	2 安全保障輸出管理の手順は完備されており、利益相反委員会も機能している。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
7	2	4	2 報告や相談のための窓口を明確化した(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
8	2	4	2 利益相反規程の制定により、国際化に対する取り組みが進んでいる。(国研等マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
9	1	3	2 大学による教育で学んだ。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等,学長等クラス,男性)
10	2	4	2 ルール作り,ルールの見直し,周知の徹底に取り組んでいる大学等が増えているように感じます。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,女性)
11	4	5	1 大学全体での研究インテグリティ教育は進んでいる。(大学現場研究者・自然科学,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
12	3	4	1 関連講習会等を実施するなどの取り組みが進んでいる印象。(大学現場研究者・自然科学,第3G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
13	4	5	1 利益相反・責務相反に関する部局が動きつつある印象。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
14	2	3	1 対応部署は頑張っていると思う(国研等現場研究者・自然科学,教授、部局長等クラス,男性)
15	4	5	1 近年の経済安保上の課題から,所属機関の研究インテグリティに対する組織的な取り組みが大きく強化されている。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
16	1	2	1 言葉は聞くようになった。(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
17	5	6	1 十分(厳し)すぎる(重点プログラム研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
18	2	3	1 アンケートや研修の質が向上した。(人文・社会科学系研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
19	4	5	1 研究インテグリティに関する学内の取組は全体として深化しているが,構成員全体への徹底などの点ではまだ努力すべきところもある(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
20	3	4	1 学内外の状況や文部科学省からの再依頼を踏まえ,2024年度に規程改正・諸手続きの再整備を伴うガバナンスの強化を実施したため。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
21	4	5	1 研修の仕組みが充実し,受講が徹底された。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
22	2	3	1 規程を整備し,一歩前進していると思います。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
23	2	3	1 研究インテグリティ規程を制定,運用し対応し始めたため。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,男性)
24	3	4	1 研究インテグリティ確保のためのマネジメント体制を整備したため(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
25	3	4	1 大学として体制を整え,関係部局での連携もしやすくなりつつあるから。(大学マネジメント層,教授、部局長等クラス,女性)
26	4	5	1 インテグリティについての規定が整備され,意識も高まってきている。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
27	3	4	1 組織的な体制整備は少しずつ進んできたと思う。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
28	3	4	1 大学事務によりチェックするシステムが充実してきている。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
29	1	2	1 大学,研究機関において,コンプライアンス教育は,少しずつ体制化されてきたと思う。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,女性)
30	1	2	1 組織的な取組のための体制を整備しようとして始めている。(俯瞰的な視点を持つ者,その他,女性)
31	6	6	0 行われているが,分野を問わずにチェックが厳しくなり,提出書類が増えており,逆に国際的な研究活動を妨げている。実際に,業務多忙のため,発表を断ったり,参加を諦めた学会や国際共同設計が複数ある。(大学現場研究者・自然科学,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
32	4	4	0 制度設計を含めて実動はこれからである。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
33	1	1	0 各国の商慣行を日本の研究者が学ぶ機会を作るべきである。(俯瞰的な視点を持つ者,学長等クラス,女性)
34	6	6	0 これ以上の縛りは研究を阻害する。(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)
35	5	4	-1 研究者自らが気づかない限り,現場の事務のチェック体制はかなり穴だらけだ。(大学現場研究者・自然科学,第2G,保健,助教、研究員クラス,女性)
36	3	2	-1 国際情勢の複雑化にはついて行っていないと思う。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
37	4	3	-1 組織としては取り組んでいるが,機関内での一層の啓発が必要と判断。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
38	2	1	-1 理科系大学院生の1/4が経済安全保障で話題になる対象国出身者。大学行政の課題あり(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
39	2	1	-1 研究活動の国際化は進んでいるが,知財リスクへの対応は遅れている。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)

40	3	1	-2	組織に従事する弁護士などがないため、非常にリスクが高いと思います。(大学現場研究者・自然科学,第3G,農学,助教、研究員クラス,女性)
41	4	2	-2	形式的な啓蒙活動はされているが、体制や整備は整っていない。(大学現場研究者・自然科学,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)
42	4	2	-2	ほぼ全ての責任を研究者個人に負わせる運用になってきており、国や組織としての体制はむしろ責任を個人に押し付ける方向に退化している。(重点プログラム研究者,教授、部局長等クラス,男性)
43	4	2	-2	性善説ありき(俯瞰的な視点を持つ者,教授、部局長等クラス,男性)

Q616. 科学技術・イノベーションと社会のパートの質問に関連する内容について、ご意見をご自由にお書きください。

- 1 海外滞在中に現地で研究資料調達する際に研究費を使いにくいのをどうにかしてほしい。(大学の自然科学研究者,第1G,理学,教授、部局長等クラス,女性)
- 2 回答者の大学のアクションは、本パートも前パートと同じである。特に総合知の活用は重要課題である。スコアは変更しなかったが、既にある程度の進捗は見られていてと感じている。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 3 学問の独立性をもっと尊重した方向に向いていかないと、国際的競争力のある研究力をもった研究者が(年齢に関係なく)育っていないのではないかと危惧する。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,教授、部局長等クラス,性別未回答)
- 4 国際共同研究を進めるためには海外出張旅費と個人の英語力が不可欠である。海外出張旅費以外に必要な資金が高騰している中で、無理をすればオンラインでも可能な海外研究者との議論のために限られた研究費を振り向けようとする研究者は少ない。先方も含めて積極的に取り組まない限り、オンラインばかりでイノベーションを生むような議論を継続することは難しい。英語力に関しては、大学教員の英語力を上げるための何かしらの縛りが必要であると考えられる。国際的な議論の場に行くと、日本人だけがほとんど意見を述べていないことが多い。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 5 研究費の獲得や、研究室の運営・維持のための活動に精一杯なことが多いのではないかと思います。学問的に極めることも研究力向上の観点からは大事だと思いますので、社会に開かれた研究活動や研究成果の活用については、仲介・媒介できる客観的な利活用を促す仕組み(人材や制度)があると良いと思います。国際化については、リスクがより大きくなっているように思います。諸々の確認や申請についても形式的なものが多く、“確認”はできても“対策”や“防ぎ手立て”等はないようなものが多いように思います。(大学の自然科学研究者,第1G,工学,助教、研究員クラス,女性)
- 6 科研の審査員に「異分野との連携が大事」だとか「社会的課題に取り組む」ということが大事たということをつかいていない人が混ざっているので得る意味hopelessになっている(大学の自然科学研究者,第2G,工学,教授、部局長等クラス,男性)
- 7 とにかく面倒臭い。このような雑務ばかりで、研究時間が失われるのが恐怖でしかありません。(大学の自然科学研究者,第2G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 8 コロナ後、国際交流は復活しつつある。社会的課題、例えば少子高齢化などへの対応は遅れている。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,教授、部局長等クラス,女性)
- 9 異分野融合を進めるような人材が枯渇しているように感じる。研究者同士では互いの必要性を見出すことが難しいケースが多く、積極的に異分野融合を橋渡しするコンサルタントのような第三者の存在が必要だと感じる。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 10 臨床系であるため、学会は積極的に活動を行っていると考えている。(大学の自然科学研究者,第3G,農学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 11 知財や保有資料に関する事務手続きが多すぎてなかなか大変です(大学の自然科学研究者,第3G,保健,教授、部局長等クラス,女性)
- 12 足元をしっかりとさせることに重点を置く必要があると思う。そのため、国際連携に関しては、今一度見直す時期にきていると思う。連携して研究等を行なった結果、相互にどのような利益が得られたのかをしっかりと精査して(やりっぱなしではなく)、実のある次の一步を考えるためのきっかけになるような作業をしっかりと行なうべきであろう。国際連携の連携先に関しても、以前とは異なってきているところも多い。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 13 本来、私の研究分野は広く国際的な研究を行うのだが、国際的な人的ネットワークとなると難しい。2者間での関係性しかないことが多い。ネットワーク化には、コミュニケーションスキルを持つ専門人材が必要と考える。(大学の自然科学研究者,第3G,保健,助教、研究員クラス,女性)
- 14 アメリカやカナダでの長期出張や研究訪問を通じて、海外の研究機関では多くの国の研究者が活躍していることを確認しました。一方で、日本では依然として海外からの研究者が非常に少ない状況が続いています。特に、日本のトップランクに位置する大学、例えば〇〇大学などにおいて、任期なしで採用される外国人研究者は極めて少ないです。この状況を改善しない限り、国際的な人的ネットワークの構築や、海外との共同研究の推進が難しくなると考えられます。(大学の自然科学研究者,第4G,理学,教授、部局長等クラス,男性)
- 15 イノベーションという言葉は軽々しく使うものではなく、ましてや研究者が目的にするべきことではないと思う。(大学の自然科学研究者,第4G,理学,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 16 知財保護や厳格なチェックは大切な取り組みと思いますが、作業量を増やすリクエストする場合は、人材や予算の確保(提供)をしなければ、研究者や研究現場が疲弊するだけであり、日本の研究力は下がる一方である。新たな取り組みには、充てなければいけない時間が新たに生じること、その時間には対価が発生することを理解していただきたい。対価とは、依頼する場合は人件費であり、研究者が自ら対応する場合は研究時間であることを知っていただきたい。一つ一つは短い時間であり、小さな変化であったとしても、それらが積み重なると研究者や大学は疲弊しているのだと思う。研究機関が、疲弊しているようでは、技術やイノベーションは起きないため、日本の大きな課題であると感じる。(大学の自然科学研究者,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 17 異分野を共働させたかったら、専門家同士を共働させるのではなく、専門家と専門家をつなぐ第三者がプロジェクトを立案し実行する方が効率が良いと思う。せっかくの専門家が異分野に手を出しても、結局は素人なのだから(大学の自然科学研究者,第4G,工学,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 18 国際協力が必要であるのは理解しているが、基礎的な研究資金がないと不可能である。(大学の自然科学研究者,第4G,農学,助教、研究員クラス,女性)

- 19 上位職位や事務職が日本語しかできないという状況がマイナスに作用しているのではないか。(大学の自然科学研究者,第4G,保健,教授、部局長等クラス,男性)
- 20 学会や政府(文部科学省)が主体となった研究倫理や利益相反などについてのweb講習や認定制度が以前より充実してきているため,若手研究者に対する十分な啓蒙活動がおこなわれており,その意識も高いと感じる.一方,研究倫理や利益相反,ハラスメントについての意識が低いのは,これまでにこういった教育を受けておらず,最近のweb講習や認定制度を形式的にしか受講しない50代以上の研究者が多い.このような状況からも,そのような人間を介さない相談窓口を所属機関内ではなく,客観的評価が可能な第三者機関として設置するべきではないかと感じる.(大学の自然科学研究者,第4G,保健,助教、研究員クラス,男性)
- 21 私達のような研究分野では,出口として社会性をもつことが重要である.昨今であれば施設の性能向上だけではなく,グリーン化も同時に推進する事が重要.バブル期,30年前では,エネルギーや資源をふんだんに使って成果を出すと言う事に疑義を感じなかったが,今ではそれは許されない.2050年のカーボン・ニュートラルに向けた人間社会基盤の大きな変革の流れの中で,それに沿った形で施設の高度化を,研究開発を計画実践していく必要があろう.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 22 はっきり行って,研究を所管している省庁の担当者も文系出身者が多かつたりして,一般国民と同じ素人である.そこに対して学会としてまとまった意見を集約し適切にやりとりすることで,適正な法令の制定などについてもっと積極的に関わった方が良い.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 23 インテグリティの過度の徹底によって研究時間が削られているような印象もある.円安や物価高で国際活動は苦境を迎えており,研究費の増強が必要.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 24 利益相反に関連して,親族から物品を購入して,全く使用しない等の問題事例を最近目にした.本件,本人は全く問題として認識できていないため,このような問題事例に関して,法的な問題点として注意喚起をしたりするための教育をしたり,ペナルティーを与えたりするための,窓口を作ることが望ましいと思います.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 25 研究や開発が結果的に社会的課題の解決に繋がること自体は良いが,研究の目的が社会的解決に繋がらなければならないという考えは受け入れられない.設問への回答ができないことが多い.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 26 国際会議の懇親会やランチが自費(日当が大幅に減額される)というルールがあるため,「国際共同研究のためのネットワークキングは不要」と見なされていると感じる.飲み食いするのだから自腹でやれということならば,国際共同研究を評価の指標にすべきではない.また,海外研究者を招聘するときに支出できる謝金が少ない.海外から有力な研究者を招聘する際にビジネスクラスを利用することが原則としてできない.ローカルルールなのかと思うが,懇親会等の問題は多くの大学研究者が問題視していると聞く.(国研等の自然科学研究者,教授、部局長等クラス,男性)
- 27 科学をどのように使うか,というのは政治的要素が強く,科学者がコントロールできるものではない.最近の電気自動車推進も,消費者の利便性,経済的合理性を無視して政治的に強引に進めようとして,失敗しつつある.科学者の方から積極的に社会や政治に関わると,御用学者になるか,反政府主義者になり,本来の研究がおろそかになる.また,マスコミは自分たちの主張に沿った発言しか取り上げないため,科学者は都合よく利用されるだけである.小中高校の授業で大学や研究所の訪問を定期的に行うのが最も良い.その際に特定の有名研究室に偏らないように,ほぼすべての研究グループが1回は訪問を受けるようにすれば,研究者も自分の研究の意義を見直すいい機会になると思う.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 28 研究者自身による社会への理解促進の活動が増えていると感じるが,一方で,過剰になってきており,研究者への負担になっていると感じる.例えば,科研費の報告書やオープンアクセス論文など,どの程度の一般国民が読んでいるのかをアクセスポイントを活用するなどしデータ収集を行い必要性の再評価をすべきと感じる.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,男性)
- 29 科学研究における「国際化」を語るうえで,国際共同研究,つまり海外の研究者と共同研究することが重視されすぎるのは疑問である.確かに国際的なネットワーク形成に大きな価値があることは間違いないが,例えばノーベル賞など国際的な賞は世界中の著名研究者からの推薦が参考となるように,最も重要なのは,「研究が日本だけではなく世界的に認知される」ことである.そのためには,長期滞在のみならず,研究を宣伝するよい機会である国際学会(海外開催)への積極的な参加も推進・評価されるべきである.円安が進んでおり,研究費の中で海外学会に参加することが難しくなっているため,海外学会参加の助成を拡充してほしい.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 30 研究者個人としては同じ関心を持った外国の研究者と協力を続けたいが,研究の国際化に対する上層部からの評価が非常に主観的かつ曖昧なもので,相手国による対応の違いが大きいので難しい.日本にとって友好的な国から高く評価されたい一方で,政治的に日本が信用していない国に対しては,協力することが技術流出のような悪事のように捉えられてしまう.その狭間で,優秀な学生が行き場を失ったりする一方で,代わりに優遇された国からの学生のレベルが低すぎて,研究の支障になったりもする.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 31 安全保障輸出管理について手続きが厳格化されています.重要性は理解できるのですが,該当しないことを証明するための手続きが複雑かつ煩雑すぎて業務を圧迫していますし,国際交流・共同研究のハードルが上がっているのが問題です.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 32 防災庁設置などの動きが,社会的課題の解決を目的とした研究開発の実施に際し,異分野の連携による取組とつながる気がしており,個人的には期待している(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,女性)
- 33 人文科学系でELSI研究が盛んに行われていることは非常にいいと思うが,科学の進捗状況を見逃した勝手な意見の暴走としか取れない発表が見られる.例えば人工的に作られた脳オルガノイドは人と見做しうするため,法整備を急ぐ必要があると言った主張であり,これは全く科学の実情と異なる主張で,科学のELSIを科学者抜きに専門性を有しないものだけで勝手に進めようとするのはいかげんなのかと思う.ELSI研究も細分化されてしまっ,もはや適切に外部評価することが困難であるとの指摘も聞いた.人文社会科学と自然科学の協働について,まだまだ構造的な課題があると思う.(国研等の自然科学研究者,准教授、主任研究員クラス,性別未回答)

- 問5-08,09に関して、安全保障輸出や知財を守るという観点から、国内・海外で学会発表するのも、組織内での発表内容の審査が必要になった。その取り組みが大事なのは理解できるが、対策が行き過ぎではないかと疑問にも思う。本パート全般について。(以前のTEITEN調査で記述したと同様ですが)我々研究者は、イノベーションを創出するために研究に取り組んでいるわけではない。政府が「我が国の科学技術を振興し、(将来の)イノベーションを創出したい」と真に願うのならば、何の役に立つかわからない基礎研究にも惜しみなく予算を配分すべき。そのためには、科研費の採択率をもう少し上げることができないか？研究費のみならず、基礎研究を担う人材確保のための予算配分が喫緊の課題と考える。現場ではここ数年、アカポスが減るばかりで研究者1人あたりの雑用の負担が激増し、研究どころではない。「科学知は人類共有の財産である」「学術研究への投資は人類の未来への投資である」「科学研究競争力・科学知は国益である」という理解を国民に広め、基礎研究とそれを担う研究人材の重要性が我が国の国民にあまねく理解されるような教育が、今こそ必要なのではないか。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 34
- 研究において社会課題を意識することは重要と思うが、それ一辺倒になってしまっているように思う。これでは新たな知は生まれにくい。各分野について異分野を受け入れる姿勢が乏しく、分野横断研究の実績もほとんど評価されないように感じる。国際連携が盲目的に良しとされていて、連携しなければ評価が低くなるというような状況に思う。連携自体には賛成だが、現状はあまりにも行き過ぎている。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 35
- 国際連携がベースとなる研究機関に在るのでその点は変化がないが、異分野融合と謳っているだけのプロジェクトや社会実装と研究のバランスが取れない環境が散見されている。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 36
- 名目上は社会課題の解決を目指すような話はあると思うが、それは申請書の評価項目等との関連から述べていることが多いと思います。基礎科学の場合、心の底から社会課題の解決を一番に考えていることはあまりなく、研究内容に引っ掛かりそうなワードがあれば利用する、というのが実情だと思います。実際に解決につながれば上出来ですが、書類や話の上でのテクニックに近いですが、それはそれでいいと思います。会議費に係る費用などについて、ちょっとした軽食なども出せないところなど不便に思いました。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、男性)
- 37
- 問5-07について回答は変えていないものの、近年研究安全保障の観点から、国際共同研究に関して事前の審査などの手続きが増えた。その中で、数時間の来訪者にさえ国籍を問うなど、多様性・プライバシーの観点からデリケートな質問事項も見受けられる。また、公表されていないデータの共有に対して、手続きが非常に煩雑のため、当事者だけでなく事務の負担も強いられることから諦めて公表データしか共有できない場合もこれまでであった。安全保障が重要であることはわかるが、自由な国際共同研究活動を著しく制限するものではあってはならないように感じていて、現状必要以上に締め付けられているように思う。(国研等の自然科学研究者、助教、研究員クラス、女性)
- 38
- 国際的な共同研究の中では、少なくとも私が関連する分野においての我が国の地位低下は著しい。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 39
- 昇進の見込みが薄くなった比較的高齢の准教授～助教の教員について、組織としてどう向き合うのが良いのか、課題がある。教育専門教員またはURAとして再雇用を進めるなどしてポストを空けないと、若い世代の優秀な研究者のキャリアアップが円滑にできなくなってしまう。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 40
- 経済安保政策の拡大の中、研究インテグリティに関するルールの明確化は、国際連携、外国人研究者の登用、自由な基礎研究の推進等にとっても極めて重要と考える。各大学・事業所において各々組織的な取り組みを進めているが、事業所・大学任せでは不十分であり、国として明確な指針を制定する必要がある。現在推進していると理解しているが、政府機関の益々のリーダーシップを望むものである。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 41
- 「総合知」について、できていると感じていたが、自分自身の立場が変わって、見え方が変わった。(重点プログラム研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 42
- イノベーションを起こすためには、運営費交付金を増やすことで、(1)申請書を書かなくても大学院生の研究を通じた教育を行えるようにして申請書作成に費やしていた時間を研究に使えるようにすること、(2)申請書に書いていないことでもアイデアを試せるようにすることが大事だと思います。国際化などは、その後に取り組むべきことです。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 43
- 社会情勢や日本国全体の課題解決に向けた「応用型研究」について、工学系分野のなかでは推進する気概が高まっていると思う。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 44
- 外国の研究所でPIポジションを持っている研究者が、日本で非常勤特任ポジションを得て、日本の研究費を獲得する際の審査を厳密にしてほしい。例えば、クロスアポイントで日本のエフォートを5%で契約しているのに、日本での研究費申請でエフォートを20%として申請すれば、虚偽記載ではないか。申請書の内容が、海外の研究とオーバーラップしていないか。そもそも海外に拠点をおく人物が、複数の日本の大型研究費を獲得すること根本的におかしい。(重点プログラム研究者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 45
- 国際化=外国人を入れる=中国人でも構わない、となって結局よくない方向へ行っていると思います。見た目の数だけのためにドーピングのように中国人を入れるのは本当に止めてほしい。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、男性)
- 46
- 知財権の取扱いのルールに関して美術史学に限って述べると、日本の美術作品の画像データが自由に使用できないケースが多いことから(寺社所有の場合は特に)、結果的に国際的に日本美術の研究が遅れています。また、日本美術の国際的な地位も低下にも繋がると懸念しています。(人文・社会科学系研究者、教授、部局長等クラス、女性)
- 47
- ベンチャー企業支援が、環境面財政面共に薄いと感じる(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 48
- 今後は共同研究や教育の国際化が進むため、それらへの対応が不可欠となる(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 49
- 総合知、オープン/クローズドイノベーションなど、国際的に展開していくためには、研究推進機構のような組織が必須であるが、一方で技術の安全保障や研究インテグリティなど制御する必要もあり、様々な問題がある。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 50
- 大学のイノベーションは社会のニーズと離れては実現しない。大学は社会から隔離された存在ではなく、社会の一部として機能すべしと考える。どのようにしたら社会の一部になれるかは、米国などの実例を、現場の立場と経験から参考にするとうい。(大学マネジメント層、学長等クラス、男性)
- 51

- 52 文理融合や総合知は大事な観点ではあり、高校段階で理系・文系に分けてしまうことには弊害があるが、大学としてよく練った教育を考えると、文理どちらも中途半端になる危険がある。研究インテグリティについては、もちろん情報の持ち出し等に対する歯止めは必要であるが、国際共同研究そのものを阻害しないような仕組みとすべきである。プロジェクトが大型化高額化し、国際共同で進めないと成果が出せないケースはどんどん増えてきている(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 53 この分野の専門家が少なく感じます。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 54 「総合知」に対する人文・社会科学系の研究者の興味・意欲は高まっていない。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 55 大学教育におけるリベラルアーツの重要性が評価されず、教育に割く時間も益々減少していると感じます。海外の研究者と対等に競争をしていくうえで重要な視点とされます。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 56 研究成果のオープン化,国際共同研究の必要性,安全保障の3つを関連して考える必要があり、特に中国との関係をどうコントロールしていくのかは重要な課題であると考えます。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 57 総合知の利活用については、学際的な研究をまずは学内で進めることを必須とし、それに対して交付金等の評価ポイントにするのが良いと思います。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 58 大学の価値を社会に対して十分に発揮させるために、大学と社会との接点をさらに多様なサービスの形として形成していく必要がある。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 59 量子技術に関しては、〇〇〇〇地区を中心に複数の企業連携の下で実証実験を進める段階にある。他方、それを広範囲に展開する際の課題(パートナー選定と資金)解決に向けた取り組みが大きな問題と考える。(大学マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 60 イノベーションは本来的には技術革新ではなく市場創出が原義であろうが、企業における研究力が2分化している。大学にある最新の機器を企業の研究者自ら使いこなせる体制にある目利き力のある企業もあれば、部門がタコソバ化し、仕様書に基づく受託サービスのみしか利用できないような企業もある。企業の研究力の底上げが非常に重要。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
- 61 インターネットの普及や携帯電話,最近では生成AIなど,科学技術・イノベーションは常に急速に進展していますが、一方、社会は新しい技術が導入されるとすぐにあって当然のものとなるため、研究開発の重要性に対する理解がその価値に比して十分進まないという課題があると認識しています。この点でも大学教員が社会の一線で活躍し、大学における最先端の研究の延長線上に日々の社会があるという感覚を醸成することが重要と考えています。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
- 62 社会が競争を善とする文化になっていない(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
- 63 研究インテグリティ対応については、機微な案件について判断ができる専門家は日本全体で見てもまだ少なく、各大学で専門家を置くのは現実的ではないため、国として相談できる部署を置くなど体制を整え、各大学を支援していただきたい。(大学マネジメント層,教授,部局長等クラス,女性)
- 64 国際共同研究を行うにあたっては、倫理指針など合わないことが多く、手間がかかりすぎる。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 65 ベンチャー企業の経営を担当する専門家が不足している。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 66 競争的研究費への応募の条件となったことで、研究者の研究インテグリティに対する意識は高まっている。また、研修を通してその理解も深まり始めている。研究者の研究インテグリティへの理解を深めることが大切な一方で、個々の研究者が対応しなければならぬことが増えており、研究者の効果的な支援の枠組みを整えることも重要。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 67 「総合知」という言葉について腑に落ちる説明や実践例を見聞きしたことがない。言葉が一人歩きしている印象をうける。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 68 国際連携について、分野を連携させて行う仕組みは、大学においては世界展開力強化事業などがあるが、大学共同利用機関等が連携して活用できる事業があるとよい。(国研等マネジメント層,学長等クラス,男性)
- 69 国際的な資金の受け入れや取り扱いについて極めて不十分であり、ルールもできていない。(国研等マネジメント層,教授,部局長等クラス,男性)
- 70 地方国立大学での勤務経験がありますが、オープンイノベーションや研究インテグリティといった取り組みは、研究支援が組織的に行われているような研究力強化に注力している大学だと進んでいるように思います。進んでいる大学、そうでない大学と二極化しているように思います。(国研等マネジメント層,その他,男性)
- 71 社会課題解決型の研究が増えているように感じているが、しかしながら、研究期間で何らかの解決をおこなうことが求められているため、より長期的な課題(例:過疎地における地域づくり)については、より長い研究期間と実証期間が設定されるべきだと考えます。つまり、いまのままでは、短すぎます。(国研等マネジメント層,その他,男性)
- 72 スマートシティ等は最先端技術の実証の場としての役割はあるものの、根本的に地域課題の解決のためにあるべきであり、技術の実証の有無によってその成否を判断すべきではない。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 73 外国人研究者の増加に対する国家としての対応が必要かと思えます。現場は結構大変ではないか。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 74 官の縦割り,旧態依然とした対応が国際化,競争力向上に大きな弊害となっている。(大企業の代表等,学長等クラス,男性)
- 75 知る限り,施策は充分であるが,参画するプレーヤーのリテラシーかそこへの伝え方により,効果が発揮しきれていないと推察する。(大企業の代表等,教授,部局長等クラス,男性)

- 76 知財に関して、近隣諸国が外国特許に対する牽制を強く(権利化を妨げる動きが加速)するなか、日本はある意味すべて等しく見ており、それが逆に弊害になっておるようなところもあるよう見受けられる。(大企業の代表等、教授、部局長等クラス、男性)
- 人にかかわる質問が多いパートですが、少子化や国際化の中で、日本の立つ位置は非常に危機感を持って対応するときにあると思います。海外の研究者は、英語で自由に話ができて、かつ発展途上国で開催されるシンポジウム等の出席が目立つ中、国内の研究者、研究生のモチベーションが限界にあるのではないかと思います。研究で使える予算や経費の額は大きいとは思いますが、国家レベルで見ると見劣りしてしまう場面も多い気がします。人材と英知を集めて日本アズNo1といえるような、技術立国を目指す必要があります。そのためにも、他国に盗み取られるような緩い知財は見直し、研究室への出入りや書類、データの持ち出し、もっと言えば研究者の方々のおごりでは無く、誇りを大事にできる雰囲気作りが次世代には大事ではないでしょうか。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 77
- 78 研究者と社会との関係はますます重要になってきている。研究者がSNSなどを通し自ら情報発信する事例も当たり前となってきている。一方で、こういった科学者に対する誹謗中傷や、発信した情報が異なる場合の対応など、考えるべき事例も多い。研究者の情報発信について、大学や研究機関が積極的に推奨するべきである一方で、一定のガイドラインや参考事例などを提示し、行き過ぎたり誤った傾向をなくしていくようにするべきである。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 79 国際連携に動いている研究者は高い意識で活動しているが、その数が少ない(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 80 研究者を研究者として使うのであれば、マネジメントをさせるのは難しい。研究は自由な発想を具現化する行為なので、ちょっとぶっ飛んだ人じゃないと耐えられないし、そういう人はマネジメントはできない。昔の研究室のように、研究も分かっているがマネジメントはめちゃくちゃ得意な助手兼秘書さんみたいなのがいればいいのに、と思う。イノベーションのネタがあれば社会実装ができるわけではなく、うまくマネジメントして世に晒す必要がある。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 81 メディアのサイエンティフィックなリテラシーが低く、エセ科学が横行していると感じる。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 82 制度のグレーゾーンの実証実験の場所や範囲が増えるのと良いと感じています。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 83 中国の野心的な行動に対して、学術領域における研究者も警戒すべき。日本のスタートアップへのあからさまなアプローチが近年急増しているが、スタートアップは経済産業省などと連携し戦略的方針を打ち出せるが、大学においては研究者に一任されており、将来の経済安全保障の重大なリスクになっていると考える。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 84 国際的な経済発展に結びつくような新たなイノベーションの創出も重要ですが、今は足元の生活を守るイノベーション創出の方が重要に思います。今更、何をしても人口減少の社会を迎えるのは間違いないことなので、地域生活を守る衣食住プラス医療に関するイノベーションに向けた取り組みに資源を集中させる必要があると考えます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 85 問5-14,15については、個人の利得と公共財の最大化のどちらに研究者が重きを置くかという問題のようにも思われます。これまでの社会情勢としては、組織への帰属意識や世間に対する責任感が強く、公共財の最大化を重視することが当たり前のものとして個人の行動もそれに準じたものになっていたように思われます。昨今の社会情勢では、個人の利得や成果を重視されることが促される環境(研究活動のために研究者個人としての成果が求められたり、SNSの発展によって成果が組織よりも個人に帰属しやすい状況など)が多いと考えます。本来は、このような社会情勢を見直すことが必要だと考えますが、それが難しい中、このような社会情勢という大枠を覆すような取り組みが求められる組織側の負担というのは計り知れないものになっていくと考えます。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 86 社会科学システムを基にした研究開発型は、中途半端な立ち位置がある。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、学長等クラス、男性)
- 87 イノベーションを推進するには、国のサポートはマストで必要であるが、それ以外にも社会環境の整備が必要。(中小企業・大学発ベンチャー等の代表等、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 88 科学技術・イノベーションの取り組み・資金募集等について、大学・研究機関を横断的かつ社会に対して直接的に広報していくことを検討してはいかか。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 89 ・社会課題に向き合った研究展開をしようとしても、各専門領域の中で認められなければ資金繰りが悪化する制度になっている印象から、なかなか行動変容はできないと思われる。・研究セキュリティ関連の対応は、まだまだこれから。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 90 研究インテグリティの高度化のために、セキュリティクリアランスを含む「オフキャンパス構想」を早期に実現すべきである。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 91 社会的課題を解決しようとする研究者の意識は高まってきていると感じている。ただそのような活動を支援する仕組みや大学組織内の意識の変化は十分ではない。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 92 日本の大学は、国立・私立を問わず、まだまだ閉ざされていて、アウトリーチも弱いし、そのため、大学外部の有用な知見が取り入れられていない(分野によって大きく異なるが)。また、研究者が自分の分野に閉じこもっているため、広く外部の知見を取り入れて、ユニークな研究を推進する精神的態度が醸成されていない。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 93 内閣府科学技術イノベーション推進事務局が司令塔となり、スタートした国際的な活動拠点化活動での今後の連携活動に期待する。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、男性)
- 94 ・大学(大学研究者)が、標準についての認識の程度は、まだ低いことから、産学連携での研究成果に関し、標準の取得も視野にいたれた活用を推進する啓発活動が必要であると考えます。・イノベーションを創出していくために、グローバル化の意識を高めていく必要がある一方、経済安全保障の観点から、大学(大学研究者)も、技術流出の防止について意識も高めていくことが必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)

- 95 ノーベル平和賞受賞等も踏まえ、イノベーションの中に社会的要請(必ずしも生活の利便性だけを求めるものだけが科学技術イノベーションではない。平和の探究も重要な課題)をきちんと入れられる成熟した社会になることを願う。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 96 今こそ、大学改革が必要である。インドのように人材を中心として街を作ることが重要である。人口減少、18歳人口減少で、地域間格差が大きくなっている。地方にも国立大学だけでなく私立大学も存続させる手法を取らないと、地方が本当に消滅しかねない。若き優秀な人材を地方に残すには、国が一定のミッションを作って予算をつける必要がある。水、森林、海洋、農業、発電分野など、地域資源を活用した事業は今後大きなチャンスを生む。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 97 各組織が努力をしていないとは思いますが、なぜ総合知が十分に活用されないままなのか、データを使ってエビデンスに基づき、国民全体(未来を担う子どもたちと彼らの教育を含み)を巻き込んだ議論がまだまだ必要だと思います。(俯瞰的な視点を持つ者、学長等クラス、女性)
- 98 産学官の連携などに関して、部分的な取り組みが見られるものの、それが全面的には展開されていないし、その兆候にも乏しい。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 99 米国の弱体化に伴い、国連の存在感は今後ますます増大する。またZ世代の感覚としても国連は重要だろう。しかし国際法や科学史は高校でも大学でも学ぶ場所がない。国際感覚を身につけるためにもこうした事情を理系研究者にも周知する活動はとても重要。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 100 研究者の社会的課題に対する意識に関しては、数十年単位の大きな流れの中での研究(たとえば、10~30年後に実用化されるであろう治療法に資する基礎医学的研究など)の社会的意義については比較的意識されていると思われるが、ごく短期(1~5年程度)に実用化が必要となる研究課題を新たに開始し成果を出そうとする研究者は、自然科学・人文社会科学を問わずかなり少ないということを確認するに至った。日本の研究者(特に、大きな研究資金を獲得しやすい中堅世代以上の研究者)は保守的な傾向が強く、従来取り組んできたこと以外の分野に手を出したがるに由来する可能性がある。コロナ禍でも、治療薬開発・ワクチン開発で日本は世界で大幅に後れをとり、臨床研究件数も極めて少なかった。人文社会科学者も、欧州各国に比して訴訟件数が圧倒的に少ないこともあり、感染症対策の許容性等に関する研究が極めて少ない。総じて、新たに出現した社会的課題に対処しようとする研究意欲が低く、従来の自分の研究を継続することのみに関心が向きがちであると考えられる。これでは、長期的にも真に社会的課題解決に資する研究は生まれにくい。アカデミア全体の意識改革を図る必要があると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 101 イノベーションにあたってはタスク型ダイバーシティが大切であるにも関わらず、大学での研究はどうしても研究者中心となってしまう、タスク型ダイバーシティが実現されていないことが問題であると感じています。昨年、日本学術会議から、「(見解)情報通信分野を中心に据えた産業化追求型(価値獲得型)研究開発プロジェクトの推進」を发出させていただきました。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 102 国主導の大学改革のための施策と予算措置については改善が繰り返されることで良くなってきているが、この制度などを使いこなせる大学側での格差が徐々に広がっている。トップ大学群では経験知の積み重ねで良くなってきている一方で、脱落する大学群が中小規模の地方国立大学を筆頭に著実に増えている。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 103 国際連携に関して、日本のプレゼンスは低下しているように思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 104 一部で取り組みが進んでいるが、日本の全般的な状況が変わるまでには至っていない。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 105 途上国では、科学技術によって解決されるべき開発課題は多いが、現場の課題の解決までじっくり取り組むことができる国際共同研究プログラムが十分に整備されているとは言えない。5年とは言わず、10年あるいはそれ以上継続できる仕組みができないものか。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 106 研究インテグリティは、大学だけに判断を任せるのではなく、多段のセキュリティネットを国が率先して作るべきでは？(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 107 大学発スタートアップに関する利益相反・責務相反のリスクへの認識や対応を急ぐ必要がある。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 108 理学・工学系と社会科学系は、問題設定と解決の両面で協働するべきだとは思いますが、おそらくお互いに本物の研究者を見極める力と寛容さがまだ不足しているために、生産的な協働が発現するにはもう少し時間がかかるように思います。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 109 社会実装を叫びすぎて、社会実装に傾注しすぎな研究者と、資金から見放される研究者を生み出している。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 110 研究者個人は、社会的な課題解決や社会的貢献を考慮して研究を行うケースが多くなっている。ただし、研究コミュニティ(学会等)は、その学術分野の発展と研究者へのサービス提供が主たる生業なので、社会貢献は二の次となっている。学会運営も、会員減少と共に厳しいものとなっている。学会の様々な活動はボランティアベースなので、多忙化の中で社会貢献の業務まで行う余裕はあまりなくなっている。異分野との協働は加速しているが、まだ十分とは言えない。イノベーション促進の環境整備はまだ不十分である。実証実験の場は増えつつあるが、実証実験で留まってしまい、社会実装までつながらないケースが多い。協議会などが増え、オープンイノベーション拠点の整備や標準化などが若干進みだしている印象があるが、まだまだ十分とは言えない。ベンチャーの起業・経営への支援環境はやや上向いているが、まだ不十分である。国際連携プログラムも徐々に増えつつあるが、これについてもまだまだ十分とは言えない。安全保障輸出管理の重要性が増している。利益相反・責務相反のリスク要因に対する意識は高まりつつあると思われるが、大学や研究者によってかなり差があると思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、男性)
- 111 研究倫理審査は小さな地方大学では専門分野に限られて十分対応できない場合も多い、第3者による倫理審査を受けることができるシステムがあると、倫理審査委員会不在の大学の研究者には有益なのではないだろうか。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)

- 112 国際活動は少しコロナで止まっていたものが動き出し、自分の周辺では総合知や学際活動も活発であるが、全体的にその余裕が持たないのが実際だと思う。プラスアルファの活動をするには基盤経費を増やして、競争的資金にものすごく力を注がなくても良いような時間的余裕が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 113 政策設計者側はしっかり勉強をして、御用学者の言いなりにならない意味のある制度を作ってほしい。単なる看板の架け替えで現場が混乱し、表面的な評価で終わっている制度が多すぎる。(俯瞰的な視点を持つ者、教授、部局長等クラス、女性)
- 114 特に人社における学会と社会との関係は、今後改善すべき要素が多いと思われる。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 115 研究インテグリティ、研究セキュリティについては、一步間違えると、研究力低下につながるので、繊細な対応が必要だと思います。若い世代がチャレンジングな研究、海外をパートナーとする研究に、てらいなく取り組めるような土台づくりが大事に思っています。それには、研究環境や研究資金の透明化、オープン化をどこで切り分けていくか、その際に大学という研究環境が本当に最善なのかについて、研究コミュニティ全体で検討し方向性を示していく必要を感じます(法令遵守の話ばかりではなくて、プロダクティブに運用する意味合いで)。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、男性)
- 116 日本では、国際連携に関して国全体で統一的なルールは無く、府省庁ごと・プログラムごとにルールは異なっている。近年、国際学術雑誌への投稿や国際共著論文が評価対象になる等、研究者に対して国際共同研究が求められているが、国際共同研究を推進するのであれば、公募要領の英文化や事務手続要領・様式の英文化等も含めて国際共同研究を容易に行うことができる制度整備が必要に思う。(俯瞰的な視点を持つ者、准教授、主任研究員クラス、女性)
- 117 オープンサイエンスの流れと経済安全保障などのインテグリティについて、研究機関がそれぞれの研究者に対して明確な組織としての姿勢を明示することがまだ十分にできていない。オープン・クローズを柔軟に行える仕組みの構築と意識改革が必要である。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 118 大学の科研費使用のローカルルールが為替変動に対応していないために国際共同研究等を実施するための支障になっており、為替変動に対応するよう指導をして頂ければと思います。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 119 社会との関係に関しては種々の取り組みは行われているが、やや形骸化しており、実効性に欠ける。国際化に伴う研究インテグリティに関しては、相手国によって問題点も異なり、諸外国の取り組みの十分な調査と、このような知見を得た専門家による教育が必要。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 120 日々の仕事に追われ、「考える」「議論する」時間をとれないことが根本的な問題である。若手中堅の「任期制」「テニュアトラック制」を見直し改革する時期が来ている。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、男性)
- 121 イノベーション支援は本来産業側がもっと積極的になるべきことで、行政はそれを促すことに最大の努力を払うべきである。現状は行政が直接的に介入し過ぎ、そのことが広い意味での研究者の独自性を抑え込み、評価システムと相まって、結果としての日本の学術成果の低下につながっている。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、女性)
- 122 諸支援・改革については進みつつあるが、スピード感も大きな課題ではないか？また、スマートシティ/スーパーシティの拡大には民間企業のより積極的な巻き込みも重要。このようなプロジェクトに投資するファンドの設立がもっとあっても良いのではないか？(俯瞰的な視点を持つ者、その他、女性)
- 123 国のみならず自治体も含め、新技術採用や新市場開拓をもっと進めるべく、社会の認知変革にも配慮すべきではないか。(俯瞰的な視点を持つ者、その他、女性)